

小千谷市真人町 住民アンケート分析レポート

～ 結果から何かが見えてくるか～
真人町バージョン(概要版)全戸配布用

2019年 7月

真人地区町内会長協議会
(真人町担当地域づくり支援員)

前書き

真人地区町内会長協議会長 瀧澤 功

日頃より地域の活動にご理解・ご協力を賜りありがとうございます。

さて、昨年度実施をしました真人町の中学生以上を対象とした「住民アンケート」につきましては、皆様からご協力を頂き高回収率で受領をさせていただき、各年代層からの意向を把握させていただきました。その後、アンケートの結果を集計し、更に分析を行うための再集計を進め、見やすく伝えるためのグラフ化をしながらまとめてきたところです。

先般、7月30日にはこの結果の「住民アンケート結果報告会」を地域づくりの専門家を招いて開催させていただきました。今後も機会を得ながらアンケート結果から見える、地域の現状や問題・課題の周知を行いたいと考えています。このため、今回アンケート結果の一部を抜粋した概要版を作成しましたので、これを全戸配布といたします。ご家族皆様でご覧いただき、先ずは「我がごと」とし、この結果を話しのタネにして話し合いが進めばと考えています。

急速に進行する人口減少からの多様な問題や課題が考えられます。少子・高齢化(多老化)や地域・組織の維持などについて、「今が良ければ…」から将来を見据えて出来ることを進めていきましょう。

(概要版を見るだけでは理解できない場合は、説明に出向くことも可能ですので相談して下さい)

- アンケート結果・分析を話のタネとして
- 現状把握、問題・課題を我がごととして

先ずは話し合いを進め

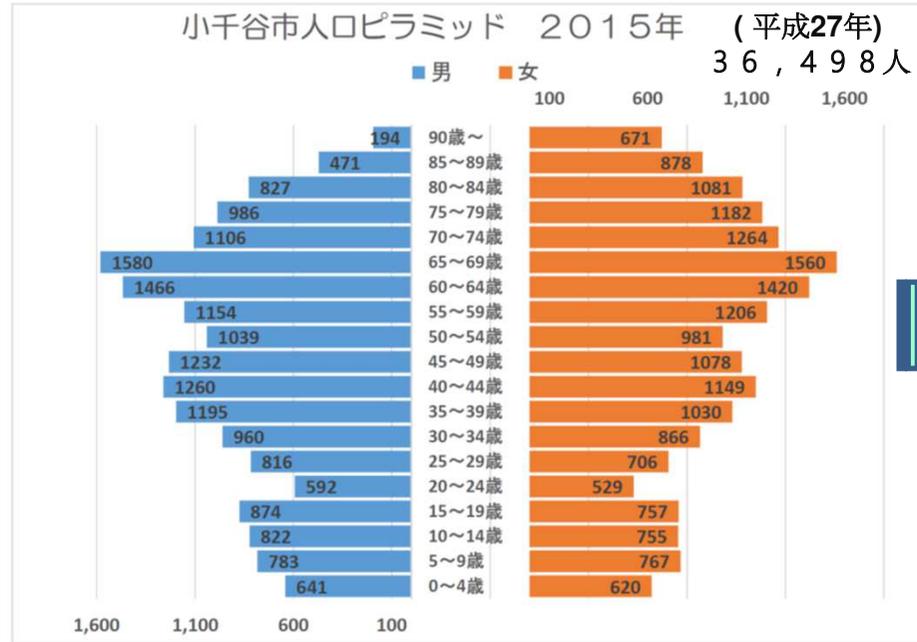
行動に移してみよう!



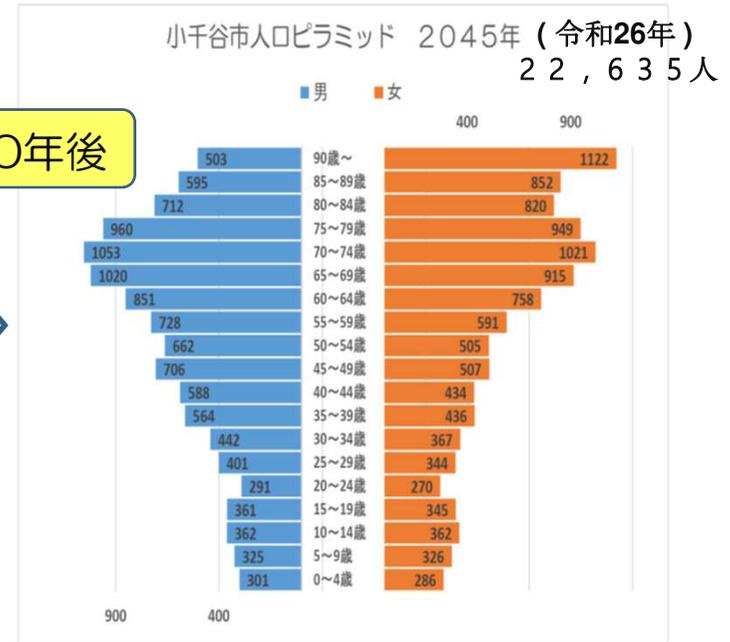
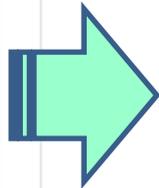
7.30アンケート結果報告会 2

小千谷市の将来人口推計

資料データ 日本の地域別将来推計人口(平成30年推計)
国立社会保障人口問題研究所



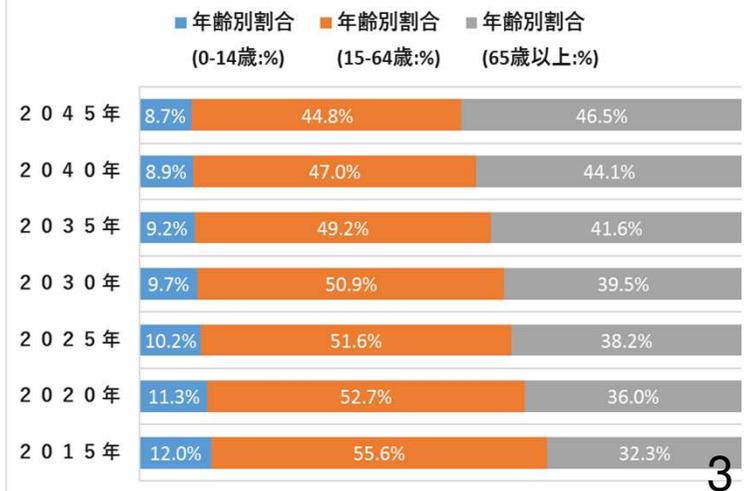
30年後



小千谷市5階級別人口推計 2015は国勢調査実績数値



小千谷市の人口推計(率)
(人口比)



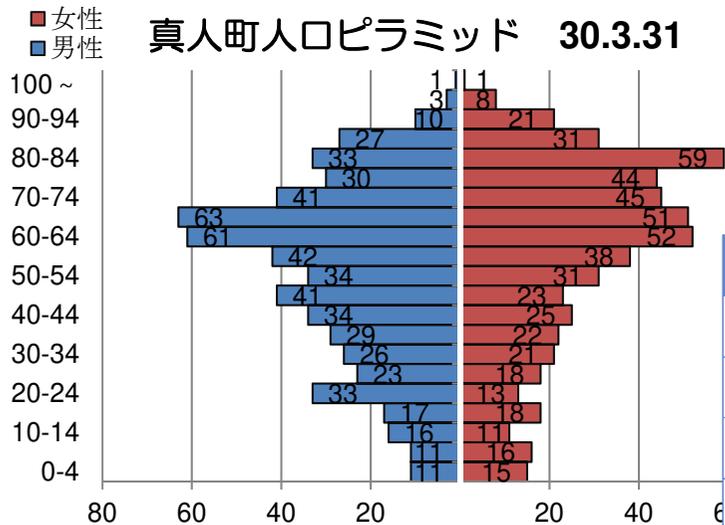
真人町の将来人口推計

※国勢調査データ、国立社会保障人口問題研究所の予測を基に推計した数値

比較	世帯数	男計	女計	合計
H30.3末	389	586	563	1,149
H23.3末	423	707	699	1,406
増減	-34	-121	-136	-257

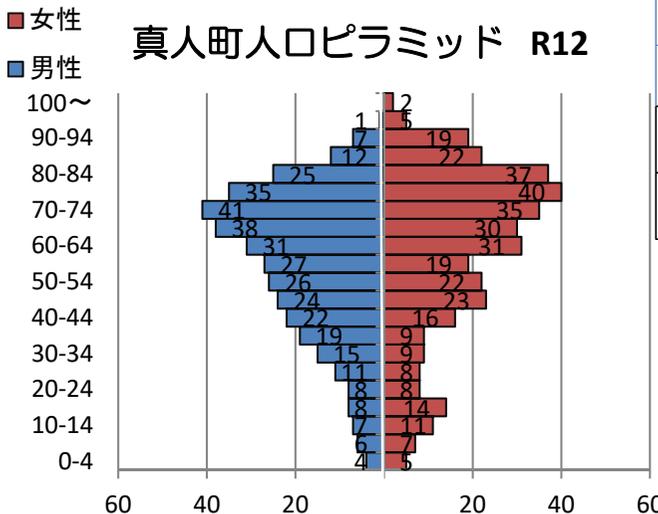
☆国勢調査データから見える30年間の人口推移

- ・真人町の将来人口を国勢調査の数値を使用して推計をしました。
- ・少子高齢化が進み人口は減少し、令和12年における総人口は750人を推計、14歳以下の人数は51人で人口比は6.8%となりました。また、高齢者は349人で高齢化率は46.6%の見込みとなりました。



真人町人口推計

合計	2000年(A) 平成12年	2010年(B) 平成22年	2015年(C) 平成27年	2025年(D) 令和7年	2030年(F) 令和12年	C/A H12から15年後	F/A H12から30年後	F/C H27から15年後
合計	1,754	1,378	1,206	887	750	68.76%	42.75%	62.18%
0~14歳	226	114	97	64	51	42.92%	22.61%	52.67%
15~64歳(A)	987	761	639	427	350	64.74%	35.42%	54.71%
65~74歳	316	192	186	179	144	58.86%	45.69%	77.62%
75歳~	225	311	284	217	205	126.22%	91.02%	72.11%
85歳~(B)	47	96	100	89	68	212.77%	144.18%	67.76%
高齢者率	30.8%	36.5%	39.0%	44.6%	46.6%			
A÷B	21.0	7.9	6.4	4.8	5.2			
65歳以上(C)	541	503	470	396	349			
		7.6%	7.0%	18.7%	13.4%			
A÷C	1.82	1.51	1.36	1.08	1.00			



☆人口が減少することによりいろいろな問題や課題が出てきます。

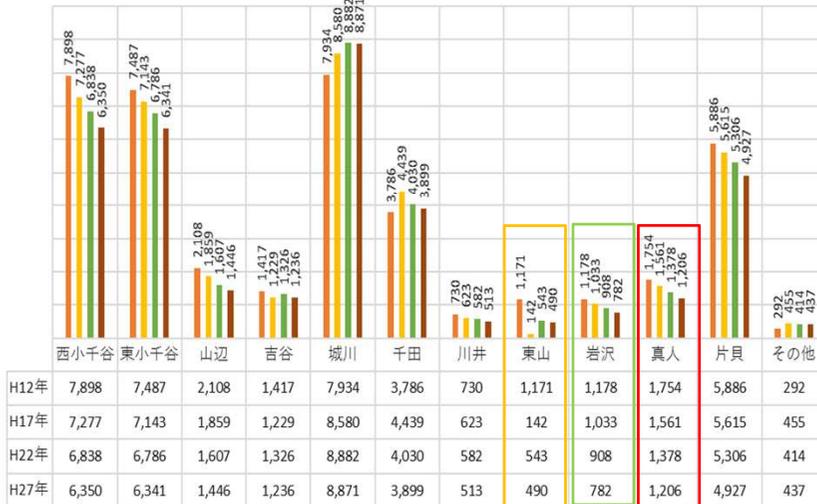
- ・多くの人は、それがどんなに大切なことでも、差し迫った状態にならない限り、必要性を自分自身の問題として突きつけられて痛切に認識できない限り、行われなようです。

人口減少はどこにもやってくる

市内人口に対する地区別人口割合の推移

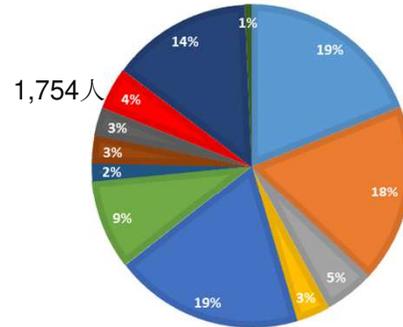
地区別人口 (小千谷市統計書)

■H12年 ■H17年 ■H22年 ■H27年



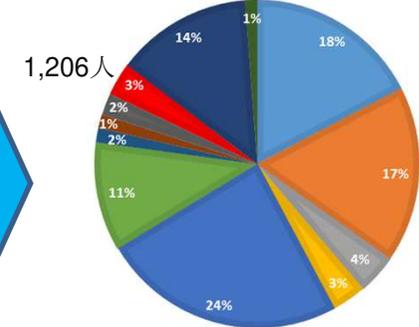
H12年市内地区別人口割合 41,641人

■西小千谷 ■東小千谷 ■山辺 ■吉谷 ■城川 ■千田 ■川井 ■東山 ■岩沢 ■真人 ■片貝 ■その他



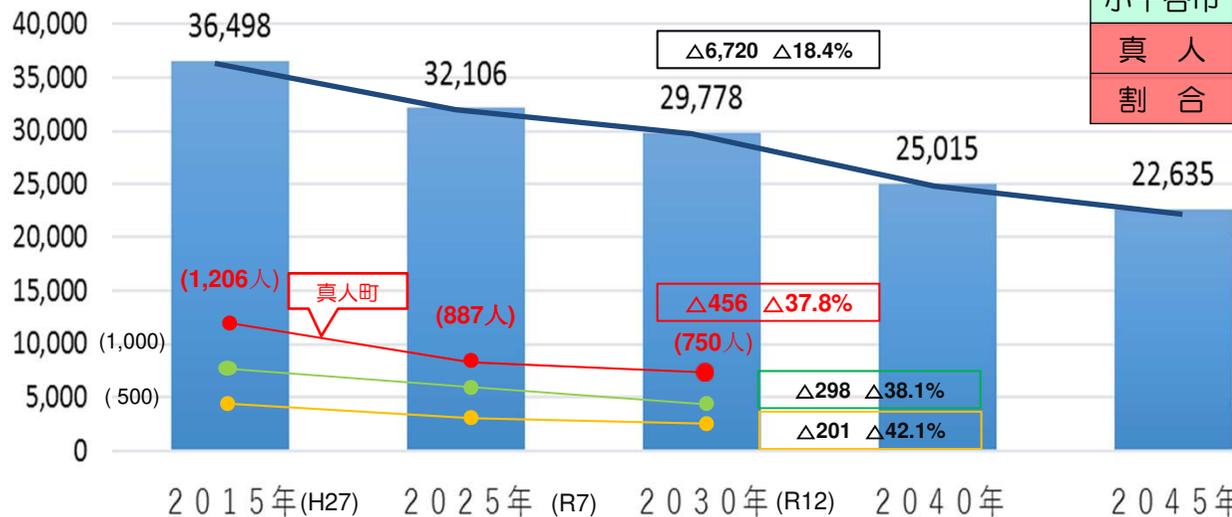
H27年市内地区別人口割合 36,498人

■西小千谷 ■東小千谷 ■山辺 ■吉谷 ■城川 ■千田 ■川井 ■東山 ■岩沢 ■真人 ■片貝 ■その他



人口減少はどこにでも!! ただ、県・市よりも前倒しで!! 減少した数値にとらわれないで、その事によって起こる問題・課題への取り組みが必要です

小千谷市人口推計

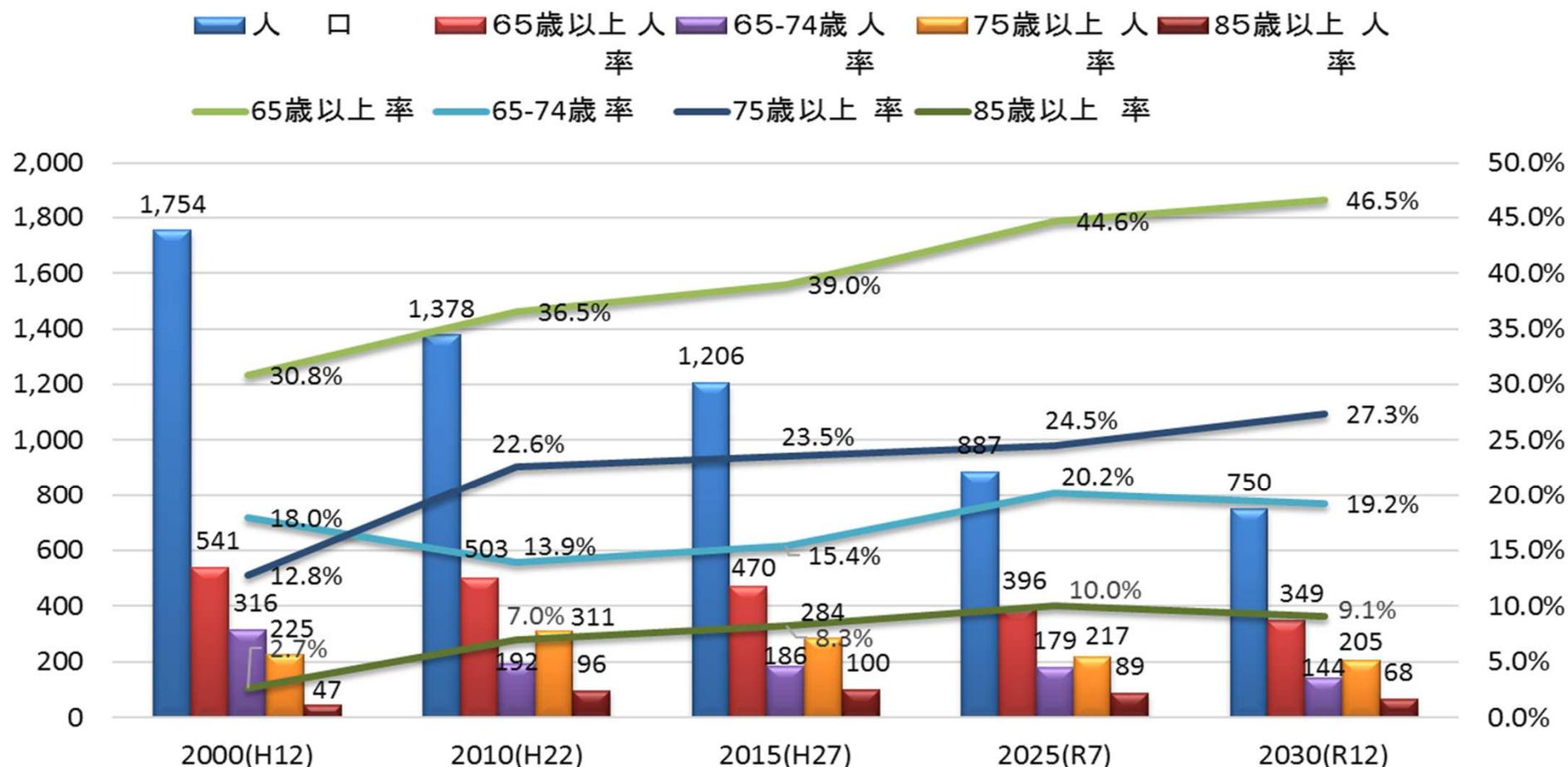


市内人口に対する真人町の割合				
区分	H12年	H27年	R7年	R12年
小千谷市	41,641人	36,498人	32,106人	29,778人
真人	1,754人	1,206人	887人	750人
割合	4.2%	3.3%	2.8%	2.5%

岩沢・東山地区の市内人口に対する割合				
区分	H12年	H27年	R7年	R12年
岩沢	1,178人	782人	576人	484人
割合	2.8%	2.1%	1.8%	1.6%
東山	1,172人	478人	317人	277人
割合	2.8%	1.3%	1.0%	0.9%

高齢者の人口推移

高齢者の人口推移 真人町



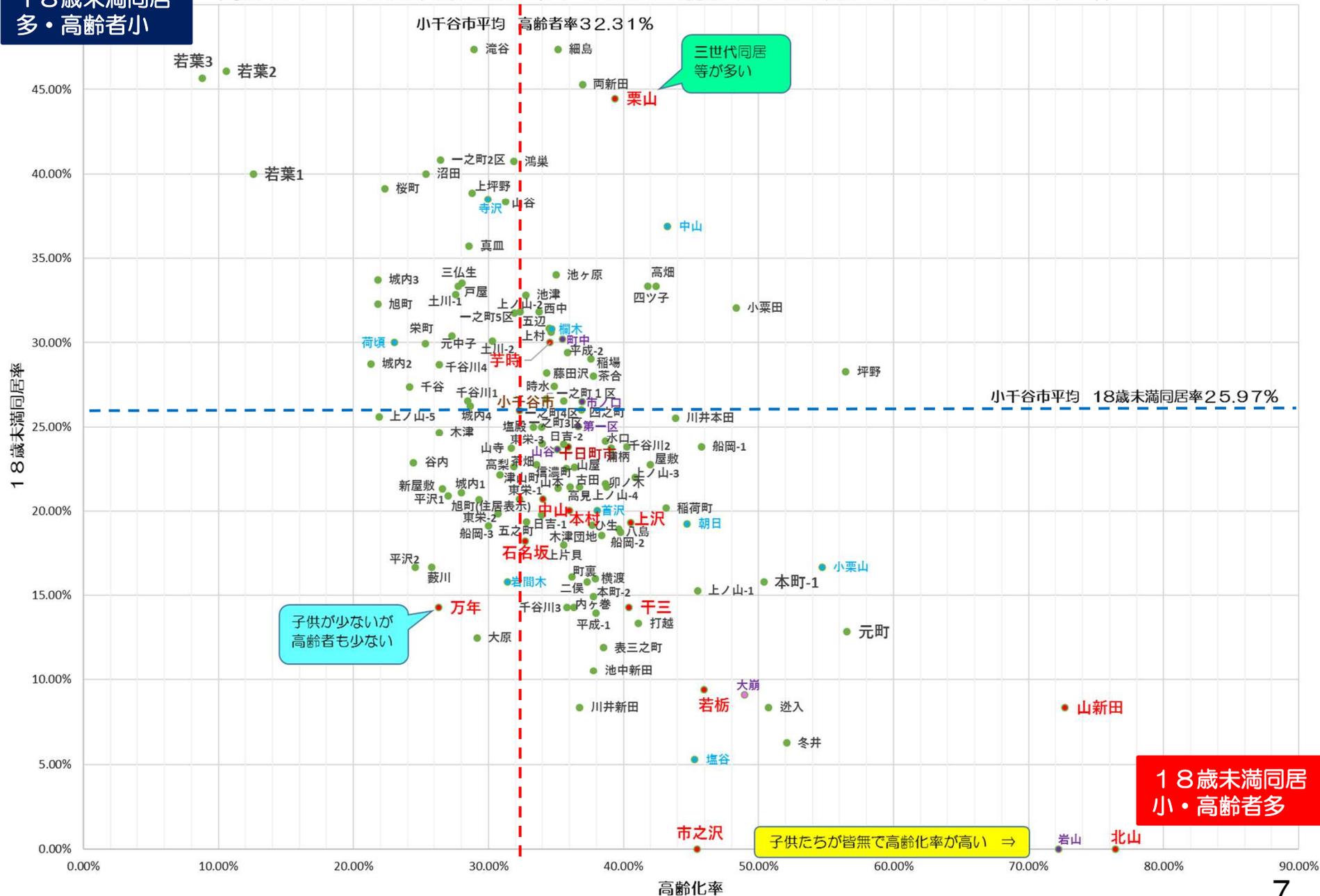
☆人数の推移だけで見ても解らないところも、人口に対する割合で見ると違いが見えてきます。

- ・ 65歳以上の高齢者の人口は減少ですが、割合(高齢化率)は増加しています。
- ・ 65-74歳(前期高齢者)も減少していますが、割合で見るとほぼ横ばい状態です。
- ・ 75歳以上(後期高齢者=介護が始まるころの年齢)と85歳以上(施設等の利用が増える年齢)の方の人口に対する割合は増加しています。

小千谷市内の集落別構成 (赤色が真人町の集落名)

18歳未満同居多・高齢者小

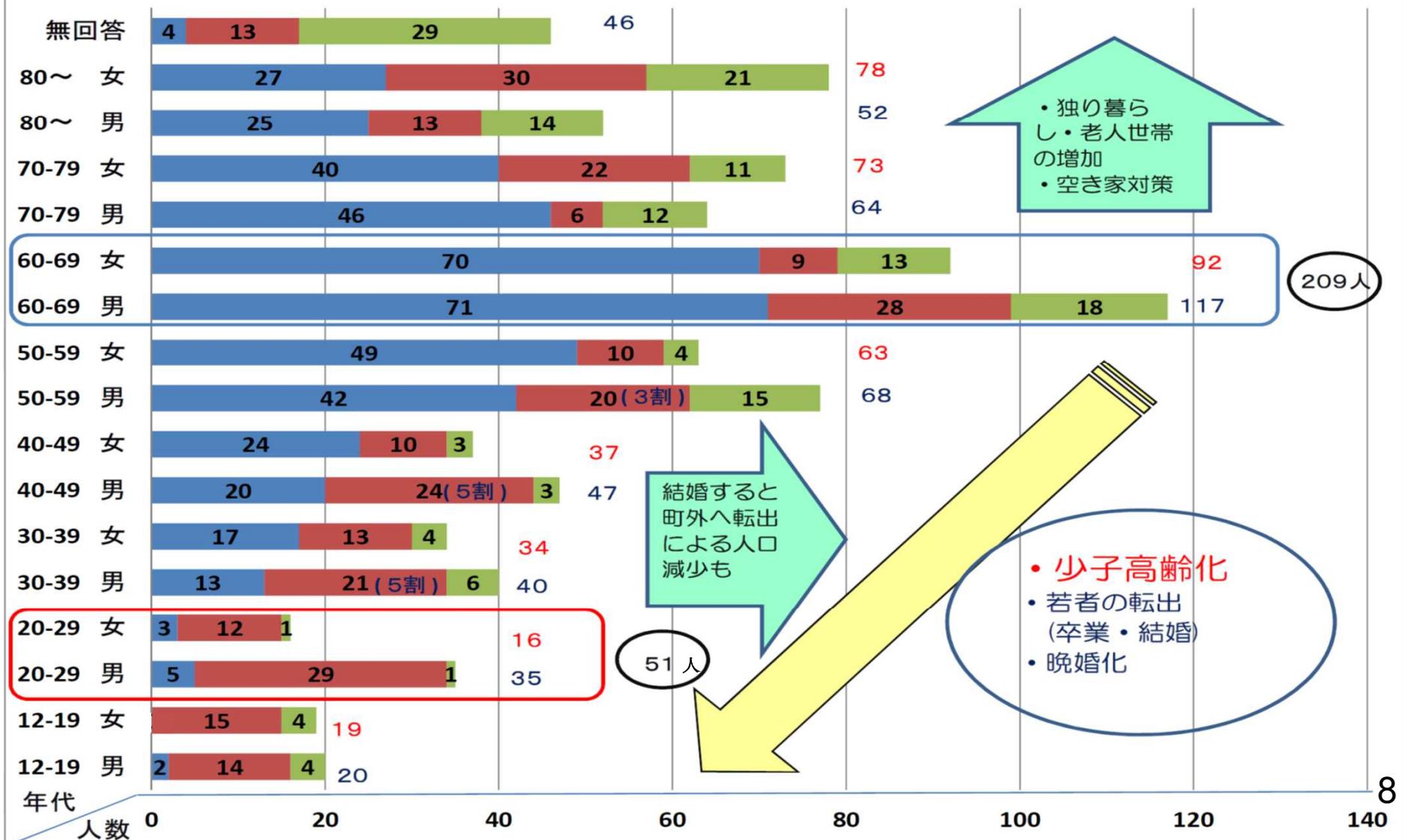
高齢者率・18歳未満同居世帯率 (H27国勢調査小地域集計 町内別) 小千谷市全体



年代×性別による配偶者の状況 真人町

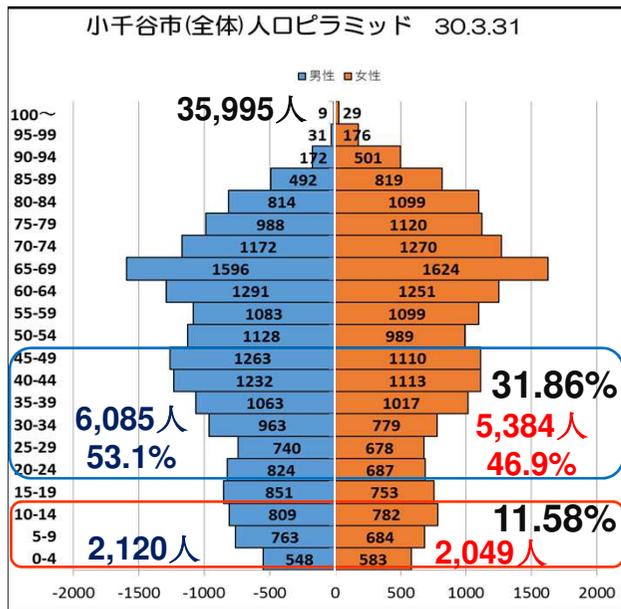
回答者属性 (配偶者の有無) 真人地区全体

■ 配偶者有 ■ 配偶者無 ■ 未回答



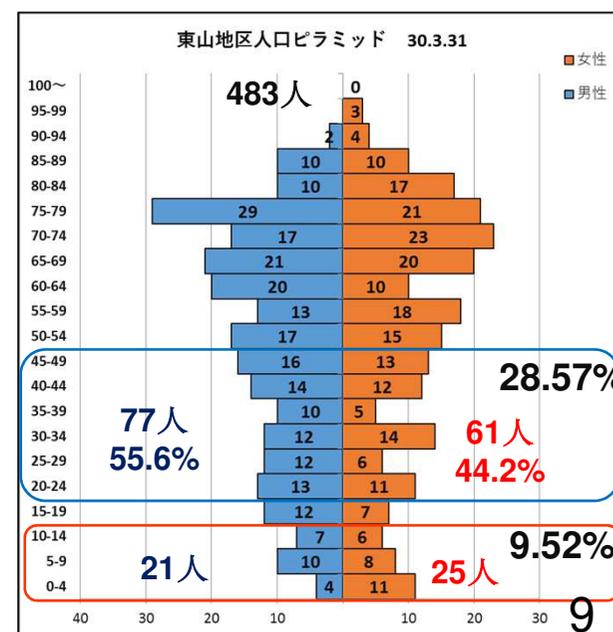
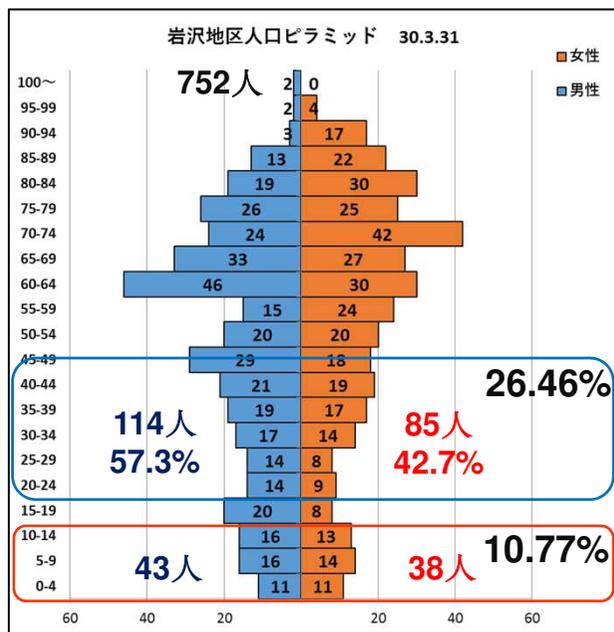
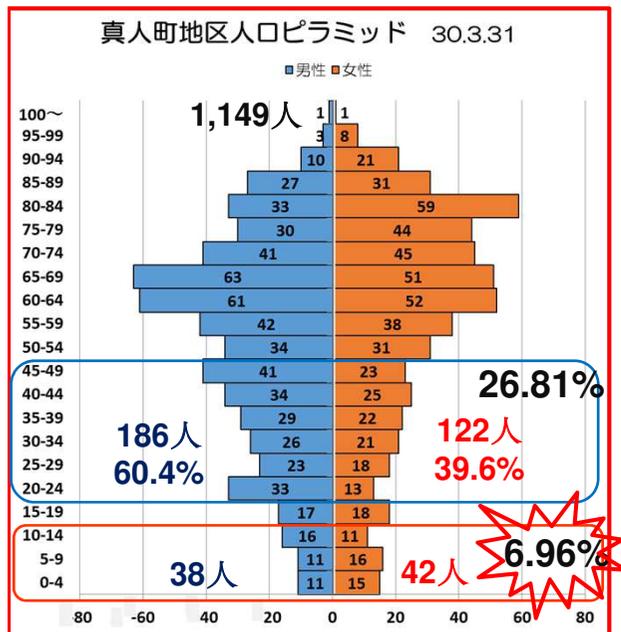
中学生以下の人口比較

真人町の子供が少ない!!



区分 地区名	人口			20代~40代人口			0-15歳未満人口				
	計(A)	男性	女性	計(B)	男性	女性	割合B/A	計(C)	男性	女性	割合C/A
小千谷	35,995	17,832	18,163	11,469	6,085	5,384	31.86%	4,169	2,120	2,049	11.58%
真人町	1,149	586	563	308	186	122	26.81%	80	38	42	6.96%
岩沢	752	380	372	199	114	85	26.46%	81	43	38	10.77%
東山	483	249	234	138	77	61	28.57%	46	21	25	9.52%

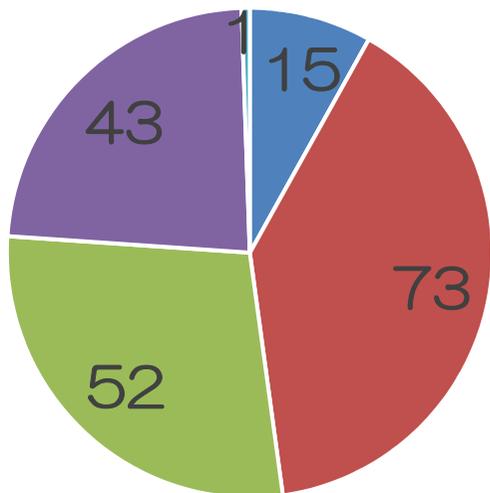
・真人町の「20代から40代」の全体人口に占める割合は26.81%で他地域の数値ともさほど変わりはありません。しかしながら、「0-15歳未満」の人口割合は6.96%で、小千谷市の平均値や岩沢・東山地区の数値に比べて少なく、**若者の人口割合に比べて子供の人数が少ないことがわかります。** ※真人町の14歳以下を人口比10%とすると115人となります。(現状80人)
※人口数値は平成30年3月末の住民基本台帳数値を使用



一人世帯・夫婦のみの世帯の「身寄りとなる人」 真人町

一人暮らし・夫婦のみ世帯の年代別
人数(50歳以上) 184人 真人町

■ 50代 ■ 60代 ■ 70代 ■ 80代~ ■ 年代不明



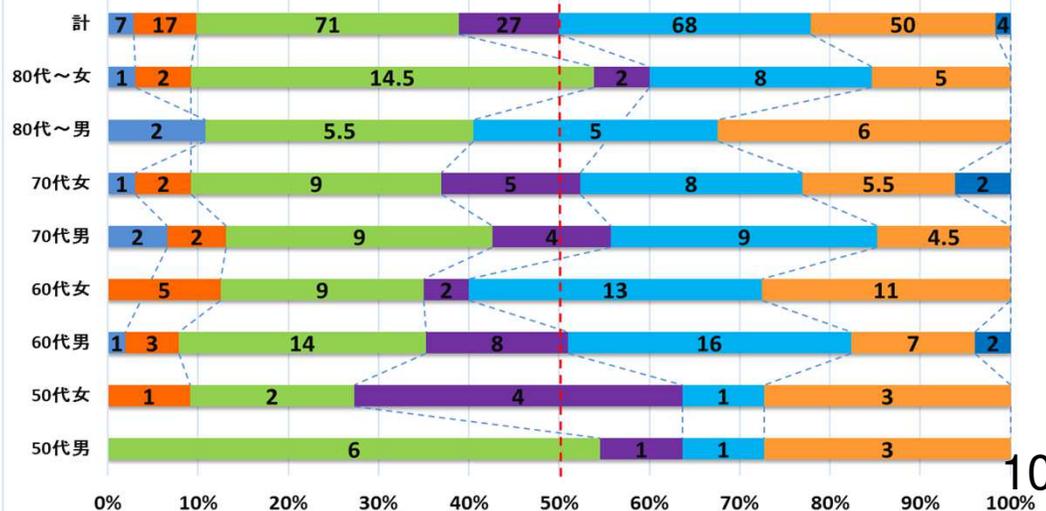
一人暮らし・夫婦のみの人の「身寄りとなる人」の有無
真人町 (回答者50歳以上×年代×性別)



身寄りとなる人のお住い 真人町

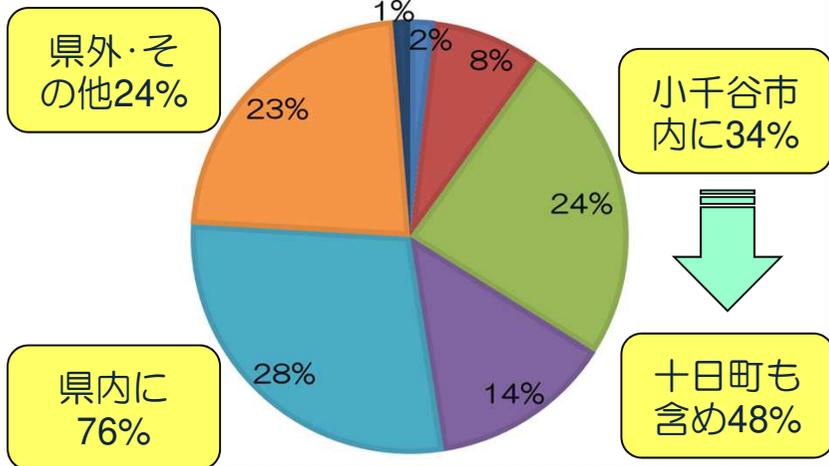
(回答者50歳以上×年代×性別)

■ 町内 ■ 真人地内 ■ 市内 ■ 十日町 ■ 県内 ■ 県外 ■ その他



身寄りの人のお住いの地域

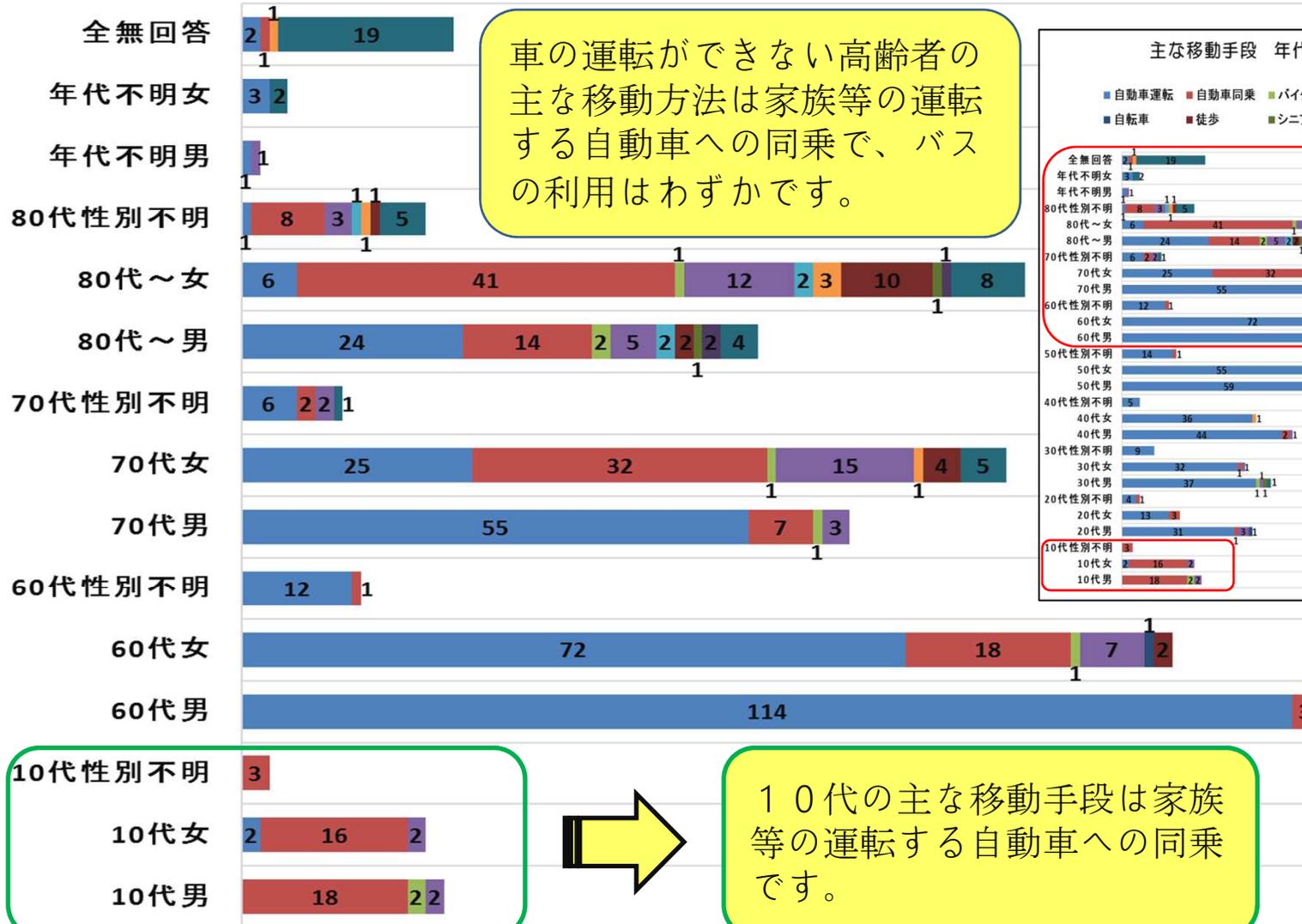
■ 町内 ■ 真人地内 ■ 市内 ■ 十日町 ■ 県内 ■ 県外 ■ その他



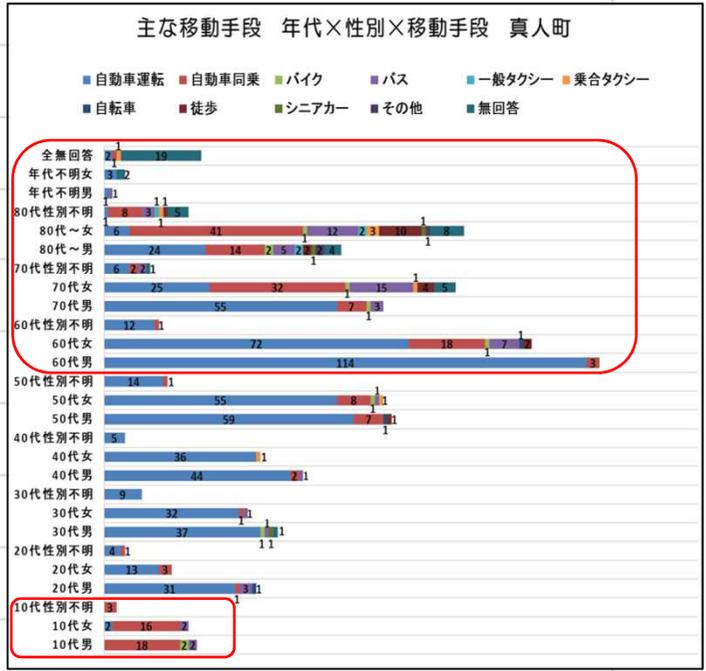
主な移動手段 年代×性別×移動手段 真人町

10代と60代～×性別×移動手段

- 自動車運転
- 自動車同乗
- バイク
- バス
- 一般タクシー
- 乗合タクシー
- 自転車
- 徒歩
- シニアカー
- その他
- 無回答



車の運転ができない高齢者の主な移動方法は家族等の運転する自動車への同乗で、バスの利用はわずかです。

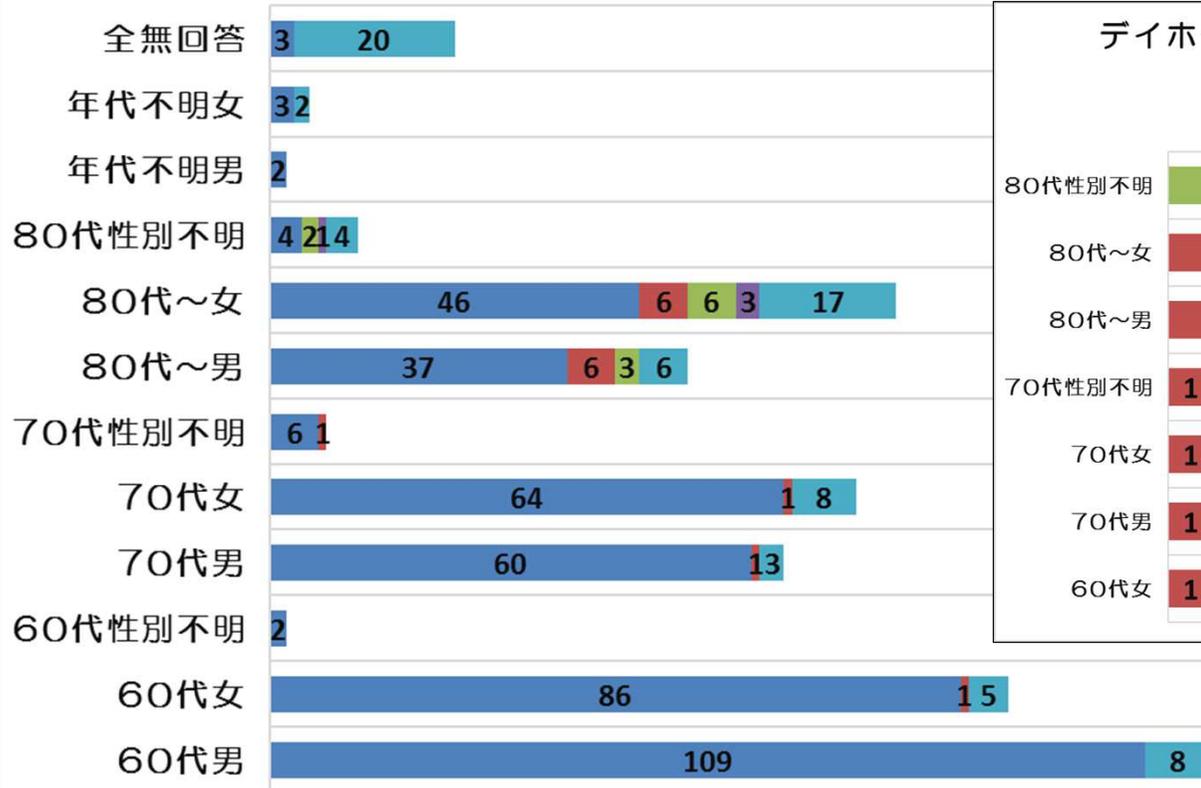


10代の主な移動手段は家族等の運転する自動車への同乗です。

デイホームの利用 60歳～ 年代×性別×利用 真人町

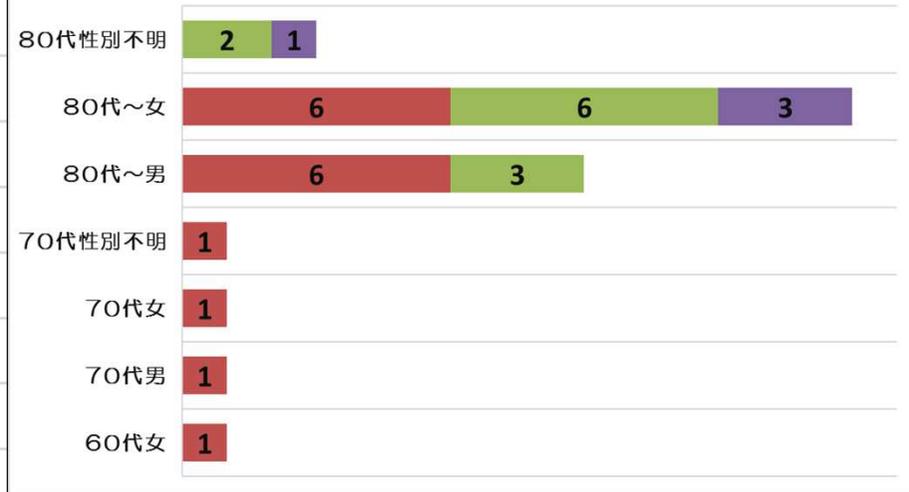
デイホーム利用 年代(60代～)×性別 真人町

■ 利用無 ■ 1～2日/週 ■ 3日/週 ■ 4日~/週 ■ 無回答



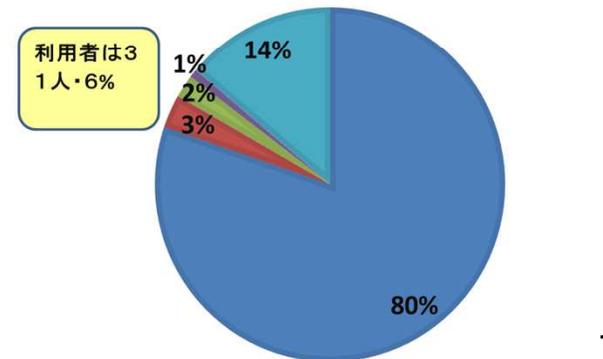
デイホーム利用者の状況(60代～31人) 真人町

■ 1～2日/週 ■ 3日/週 ■ 4日~/週



デイホーム利用状況(60歳以上) 真人町

■ 利用無 ■ 1～2日/週 ■ 3日/週 ■ 4日~/週 ■ 無回答

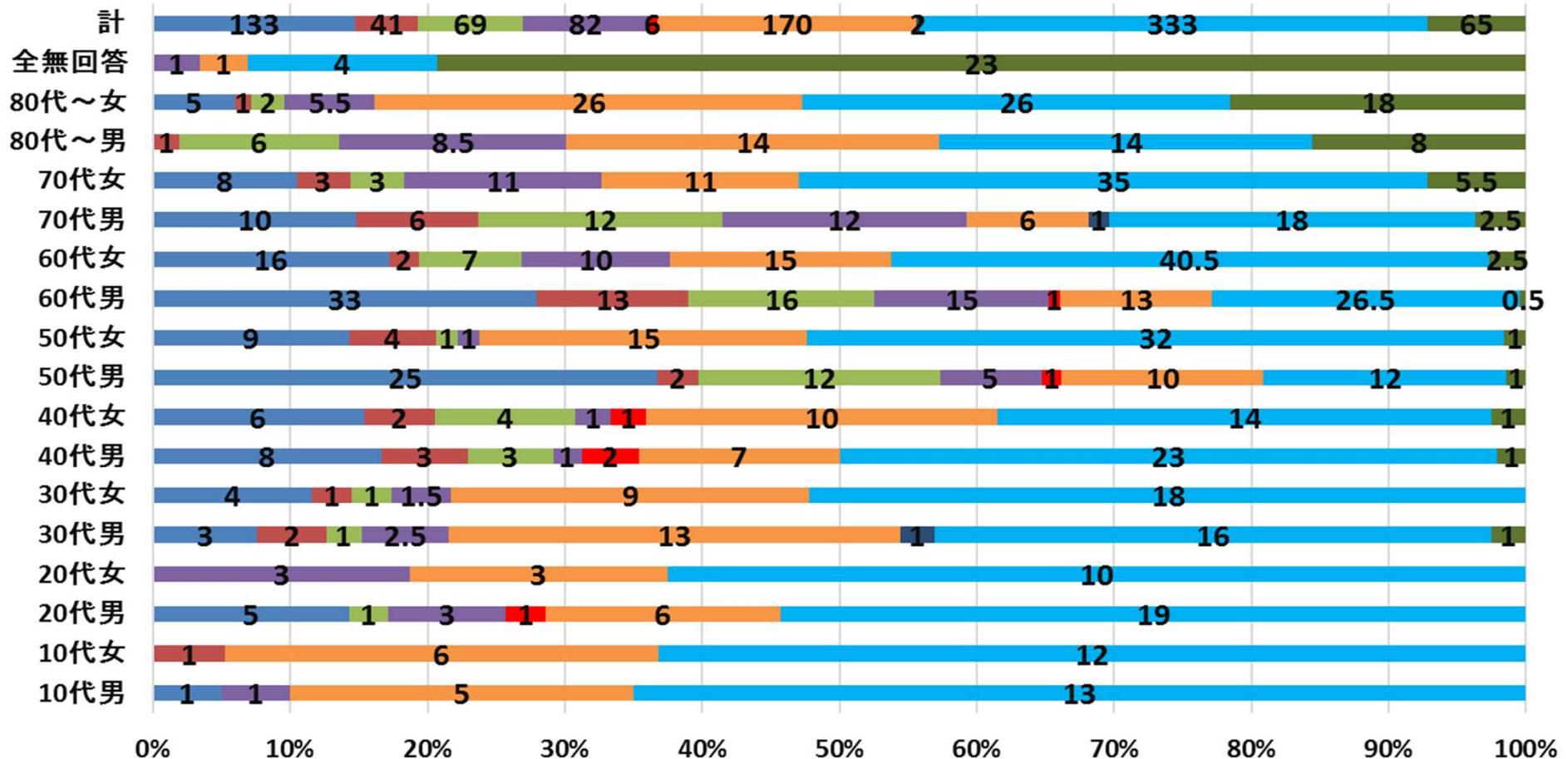


- デイホームの利用者(60歳以上から抽出)は31人で全体の6%でした。
みんな健康で過ごしているのかな・・・?
(介護施設へ入居すると住所も変わるよね)
- 80歳～利用者が増えるよね!!

将来の農作業や管理への従事 真人町

10年後の農業を自らしているか 年代×性別 真人町

■同程度 ■一部委託 ■田全て委託 ■耕作放棄 ■拡大希望 ■していない ■新規就農 ■わからない ■無回答



☆全体の約4割の方が10年後の農作業については解らないと解答しており、特に若年層の回答者に多く見られました。定年前となる50代の男性は「わからない」の回答は少なく、今後を見据えているようです。

- ・農業の主力である60～70代の方も委託や耕作放棄への意向が具体的に数値化されて見られます。
- ・新規就農が2名、規模拡大が6名おられました。認定農業者などの取り組みが気にかかります。

取り組みの満足度と重要度の評価(まとめ)

真人町

◎将来を見据え、これから重点的に取り組むべきだと考えられている項目上位5つ

① 買物・通院・通学・習い事など、移動支援活動

10~60代と幅広い年代で強く必要性を考えている

⇒ 送迎される側よりも、送迎する側の負担もあり、切実なこととなって求められているか？

② 冬季の道路除雪・交通確保、雪対策

30~60代が特に強く必要性を考えている豪雪地帯故の切実な問題

⇒ 重要とほとんどの人が回答していますが、満足度では二極化している。早朝や夜の通勤者と自宅で過ごす人では感じ方が違いますね。(次ページ参照)

③ 婚活イベントや紹介などの対策、婚活支援 少子化が顕著に物語る重要な課題、

該当する世代よりも、50~60代が特に必要性を考えており、70代以上も高い数値を示している。

⇒ 少子化が顕著に物語る重要な課題となっており、後継者、担い手の心配ともなる。

④ 子育てなどの相談ができる場や人、子育て支援

全世代共通で必要性を考えている。

⇒ 市街地から離れていることから子育て施設やサービスに縁遠いか？

⑤ 農地・農業用施設・山林など、維持管理活動

50・60世代で特に必要性を考えているが、そのほかの年代も幅広く必要と考えている。

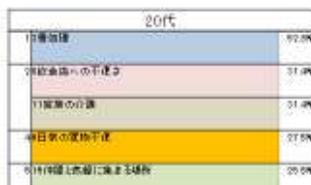
⇒ 少子高齢化(多老化)や地域からの転出など、今後の後継者や担い手は不足？

暮らしの中の困りごと(複数回答)

10代



20代



30代

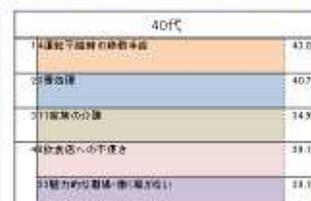


地区全体(複数回答)

57

暮らしの中の困りごと(複数回答)

40代



50代



60代



地区全体(複数回答)

58

暮らしの中の困りごと(複数回答)

70代



80代



地区全体(複数回答)

59

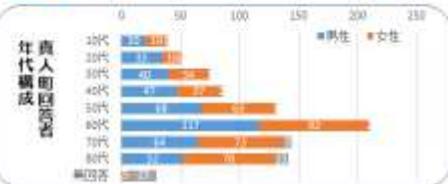
暮らしの中の困りごと(まとめ)

真人町

全体の順位は
高くないが、
**若者
中堅世代**
特有の困りごと

全体の順位は
高くないが、
**中堅
高齢世代**
特有の困りごと

- 第 8位 魅力的な職場・働く場がない 20.0%
10・30~40代で上位にランクインのほか20・50~60代でも高い
- 第10位 飲食店への不便さ(食堂・仕出し・宴会場・居酒屋等) 28.1%
20・40~50代で上位にランクインのほか30代でも7位
- 第11位 仲間と気軽に集まる場所がない 16.4%
10~20代で上位にランクイン 若年層特有の困りごと
- 第15位 子育て環境に関わること 12.7%
- 第20位 子供の教育環境に関わること 11.0%
子育て世代での悩み事 ⇒ 教育・子育て環境への不安?
- 第 7位 医療体制の不便さ 20.9%
40~80代で高い割合 ⇒ 医療機関利用の不便さや医師の減少への不安?
- 第 9位 農地・農業用施設・山林維持管理 18.7%
- 第12位 共同作業・共同施設の維持管理 16.0%
50~70代で高い割合 ⇒ 少子高齢化や後継者・担い手に対する不安と高齢化による体力や負担増加に対する不安?
- 第13位 金融機関への不便さ 15.1%
70~80代で高い割合 ⇒ 農協優先機関の廃止によるATM化への影響か?



暮らしの中の困りごと(まとめ)

真人町

第1位 屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなどの冬季の雪処理 40.4%

すべての世代で上位にランクイン(20・30代、50代でトップ)
⇒担い手不足への懸念、70代以上は作業自体への不安?

第2位 今後、自分が運転できなくなった場合の移動手段 40.1%

30~80代まで上位にランクイン(40代、60代でトップ)
⇒通勤や買い物、通院もほとんど市街地へ 公共交通機関も不便で6割の人が車を運転

第3位 自身の健康状態のこと 35.2%

50代以上から上位にランクイン(70~80代でトップ)
⇒自分の健康について不安視している人が多い。高齢者の健康づくり、予防が課題?!

第4位 家族の介護に関わること 29.0%

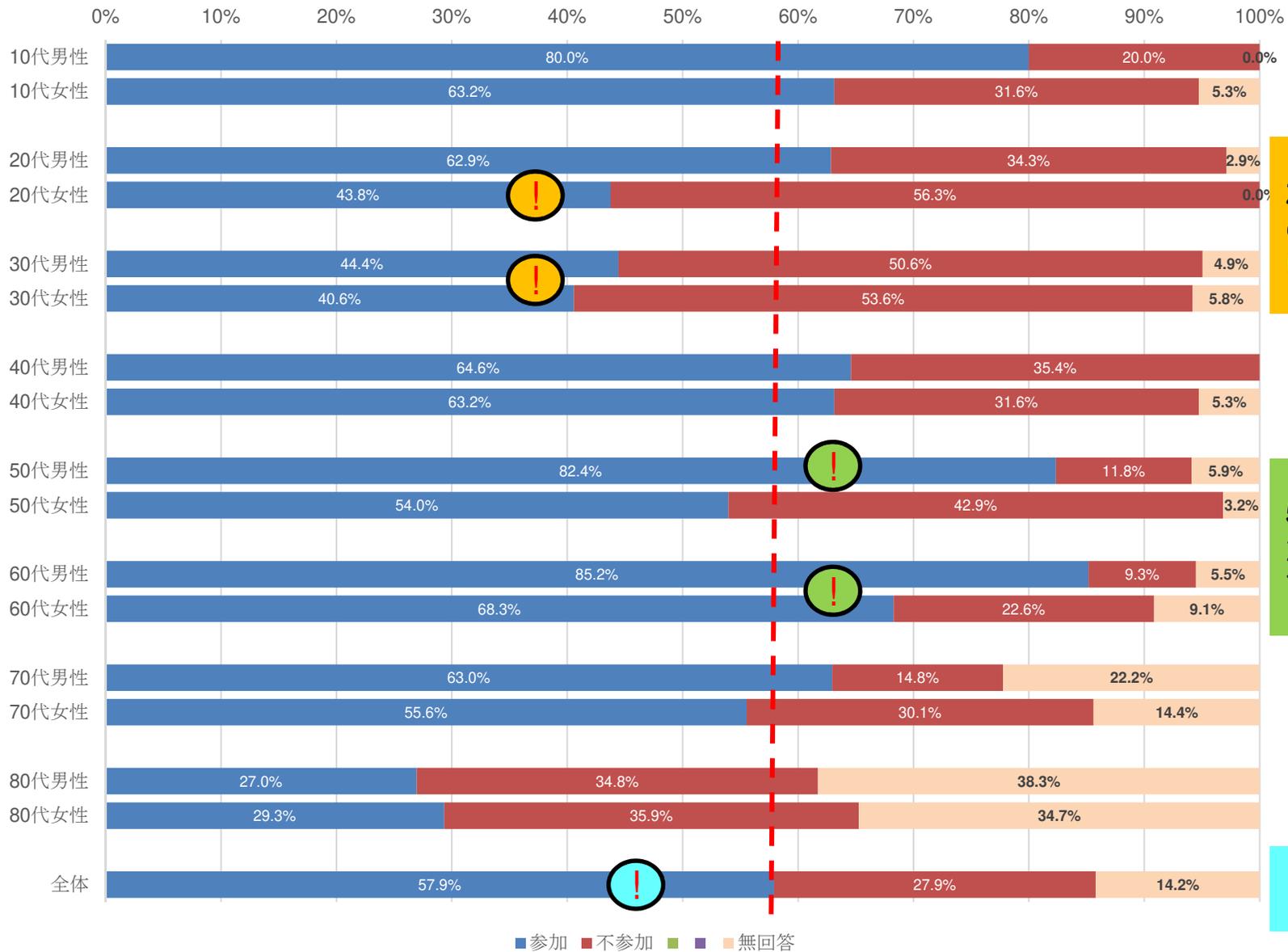
20代~60代まで上位にランクイン(20~30代で第2位、40~50代で第3位)
⇒高齢者の健康づくり、予防が課題?!

第5位 買い物、通院、通学、通勤などの移動手段 27.8%

10代と60~80代まで上位にランクイン(80代は第2位)
⇒市街地への足が必要だけど公共交通も不便で家族に頼る。新たな交通手段の仕組みも必要か?!

※買い物の不便さには10・20・70・80代が上位にランクインし、30代で6位、60代で7位でした。

町内や地域活動への参加状況



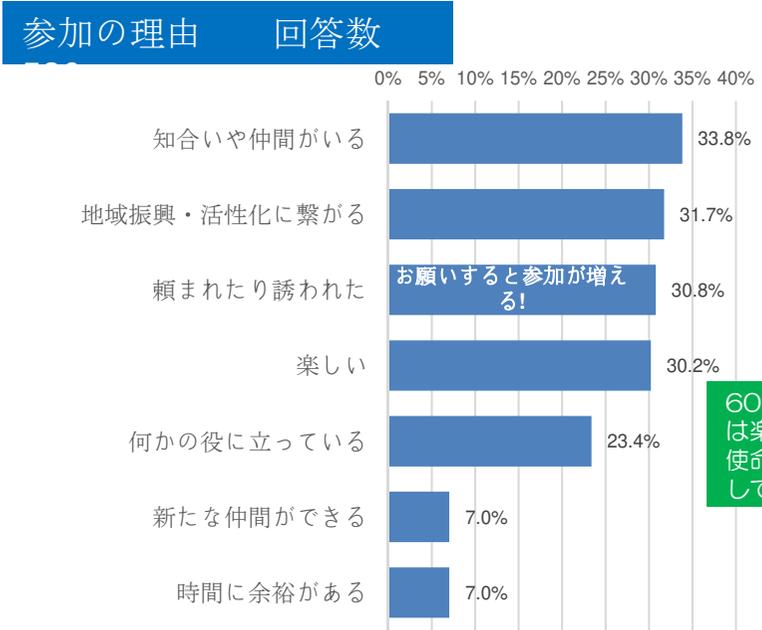
20代女性と30代の参加の割合が低いのは忙しいのか

50代男性と60代が役員を中心として奮闘している

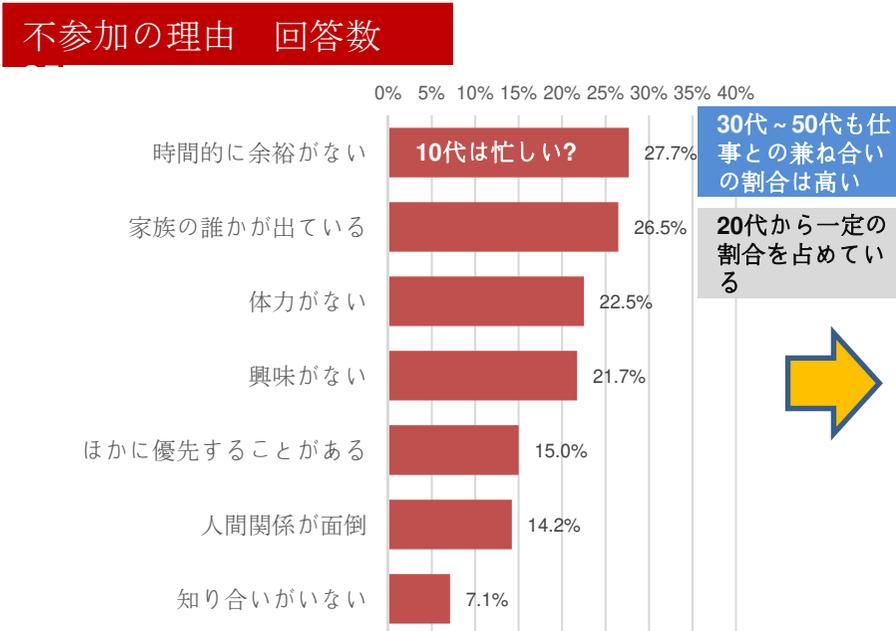
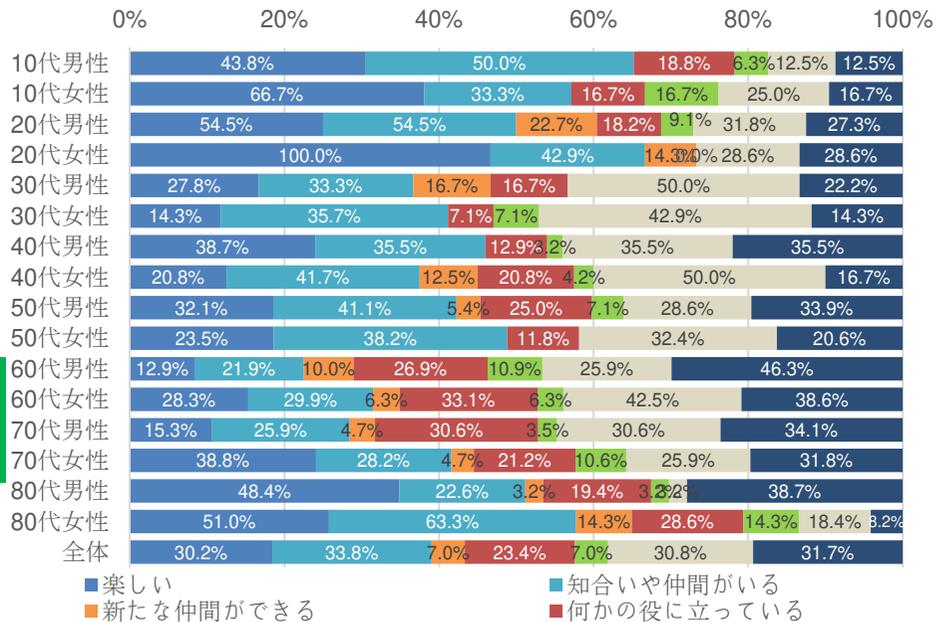
全体の約6割の人が参加している

参加・不参加の理由は次で見てみよう

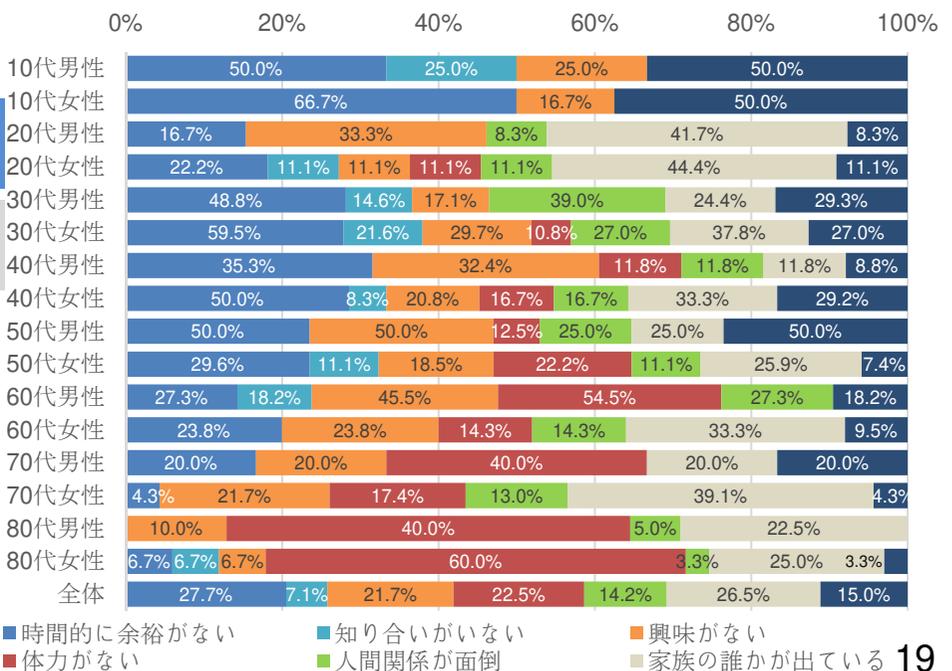
町内や地域活動への参加状況(それぞれの理由) ※複数回答



60代・70代では楽しむよりも使命感と役員としての参加か



30代～50代も仕事との兼ね合いの割合は高い
20代から一定の割合を占めている

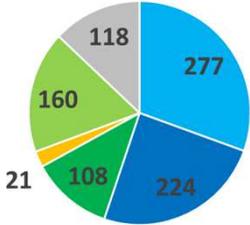


女性・若者の声を反映する必要性 (年代別×男女別) 真人町

活動や・運営に若者・女性の声をもっと反映

真人町

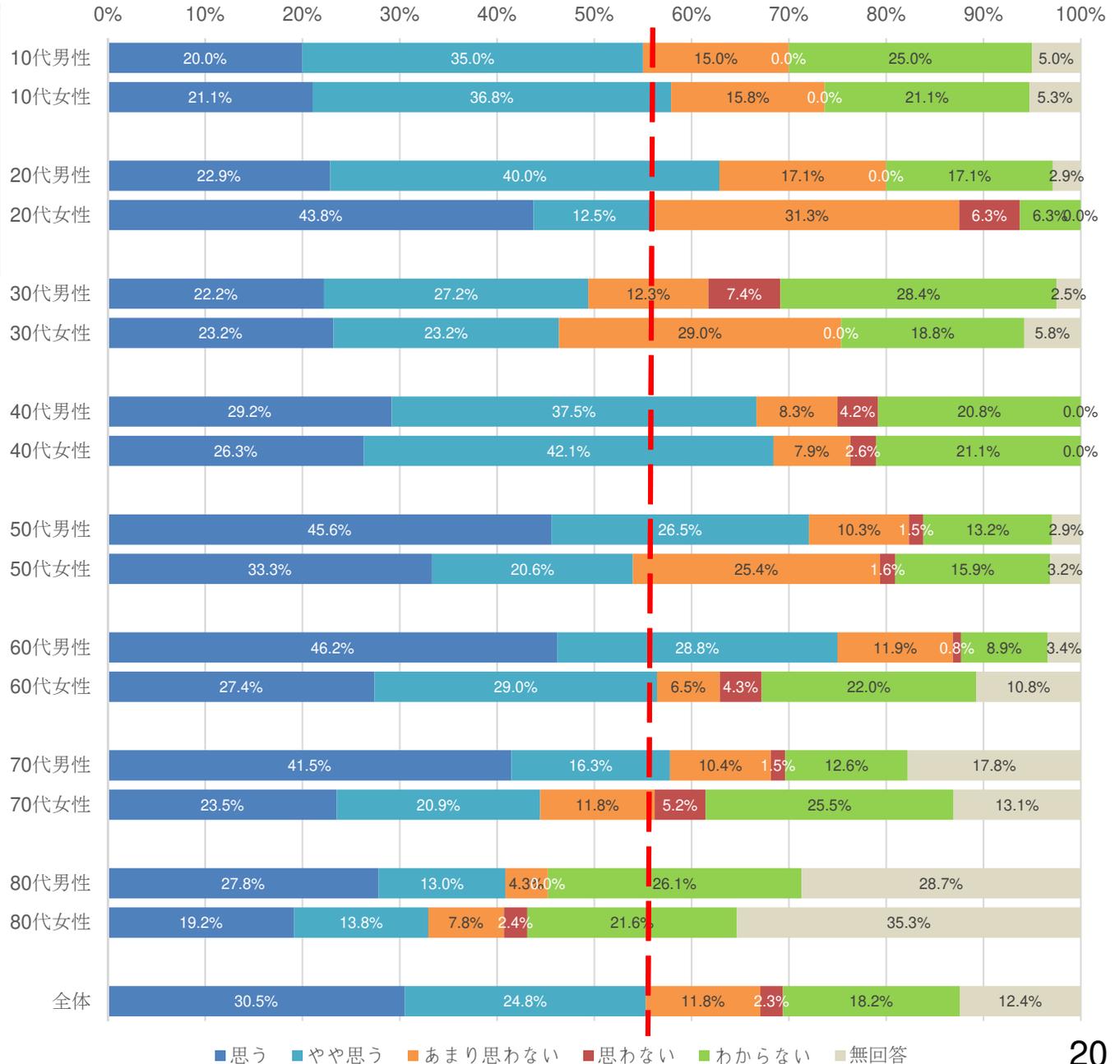
■ 思う ■ やや思う ■ あまり思わない ■ 思わない ■ わからない ■ 無回答



☆思う・やや思うと回答した方は55.3%、501人で、**地域全体では過半数以上が「必要」との意見**でした。

・男女の回答に大きな傾向の違いはありませんでしたが、50代後半からの男性のほうが必要と感じている割合が高くなっています。

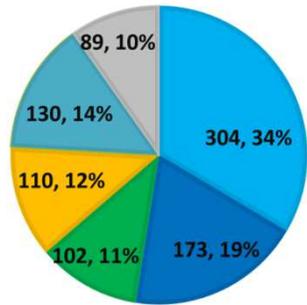
・30代では全体の平均を男女とも下回った結果となっています。



この地域に住み続けたいと思うか？ (年代別×男女別) 真人町

今後もこの地域に住み続けたい 真人町

■思う ■やや思う ■あまり思わない ■思わない ■わからない ■無回答

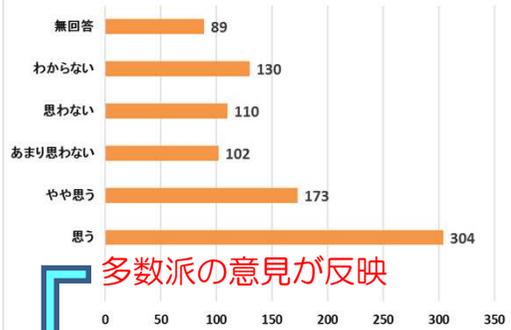


☆全体で見ると今後もこの地域に住み続けたいと「思う・やや思う」と回答とした方は52.8%、477人でした。

・各年代別に見ても5割前後となりますが、「思う」の回答を見ると年代が下がるほど低くなる傾向で、あまり思わないが増えていることがわかります。

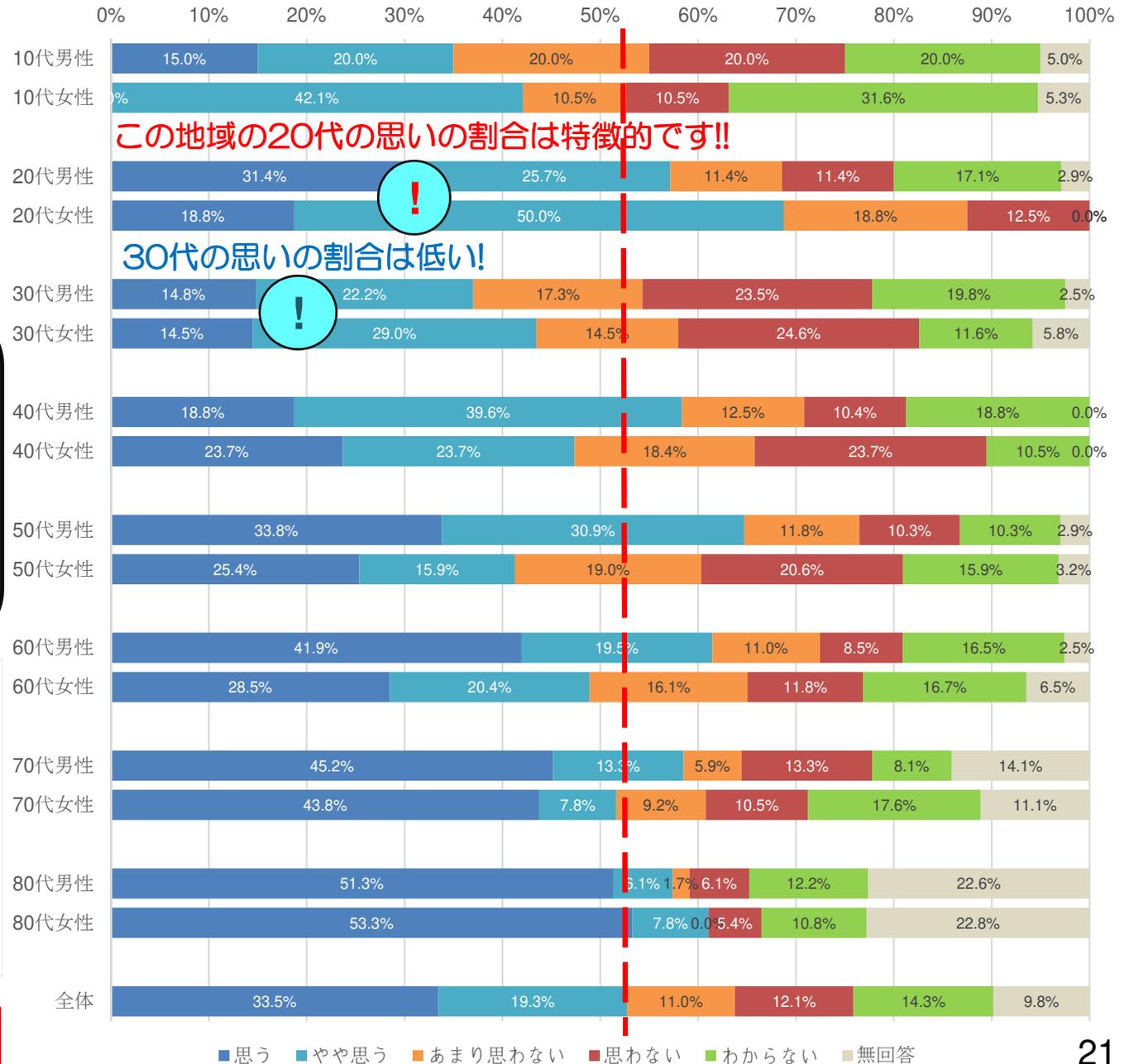
・また、子育て世代の女性も地区平均より低くなっています。

今後もこの地域に住み続けたい 真人町



多数派の意見が反映

全体では5割



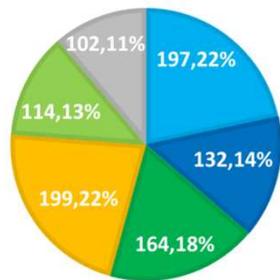
この地域の20代の思いの割合は特徴的です!!

30代の思いの割合は低い!

自分の子どもにも住み続けたいと思うか？ (年代別×男女) 真人町別)

自分の子供にもこの地域に住んでほしい 真人町

■思う ■やや思う ■あまり思わない ■思わない ■わからない ■無回答



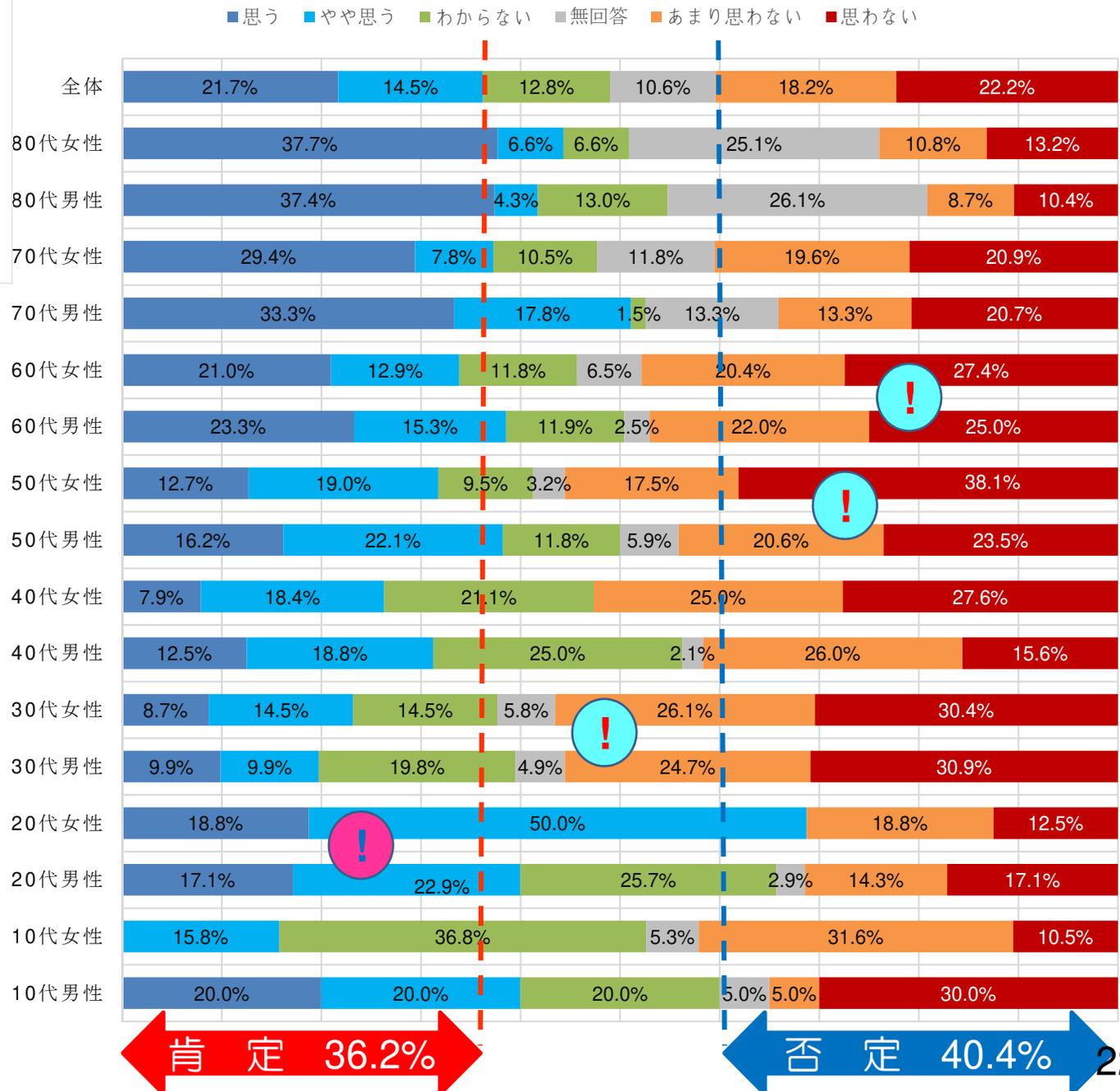
30~50代の母親世代は
50・60代の親世代も

思う < 思わない

☆自分の子供にもこの地域に住んでほしいと「思う・やや思う」と回答した人は全体で36.2%で、「思わない・あまり思わない」は40.4%となりました。

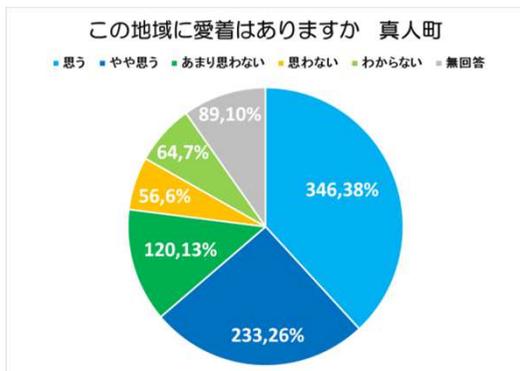
・30代以上では、若い人ほど子供にも住んでほしいと思う人は少なくなります。また、50~60代の後継者を考える年代の回答者は、住んでほしいと思うよりも思わないの回答が増えています。 30代の回答では50%以上を超えています。

・特にこの地域の20代の思いは特徴的です。



地域への愛着の有無 (年代別×男女別)

真人町



「愛着がある・ややある」は6割以上!!

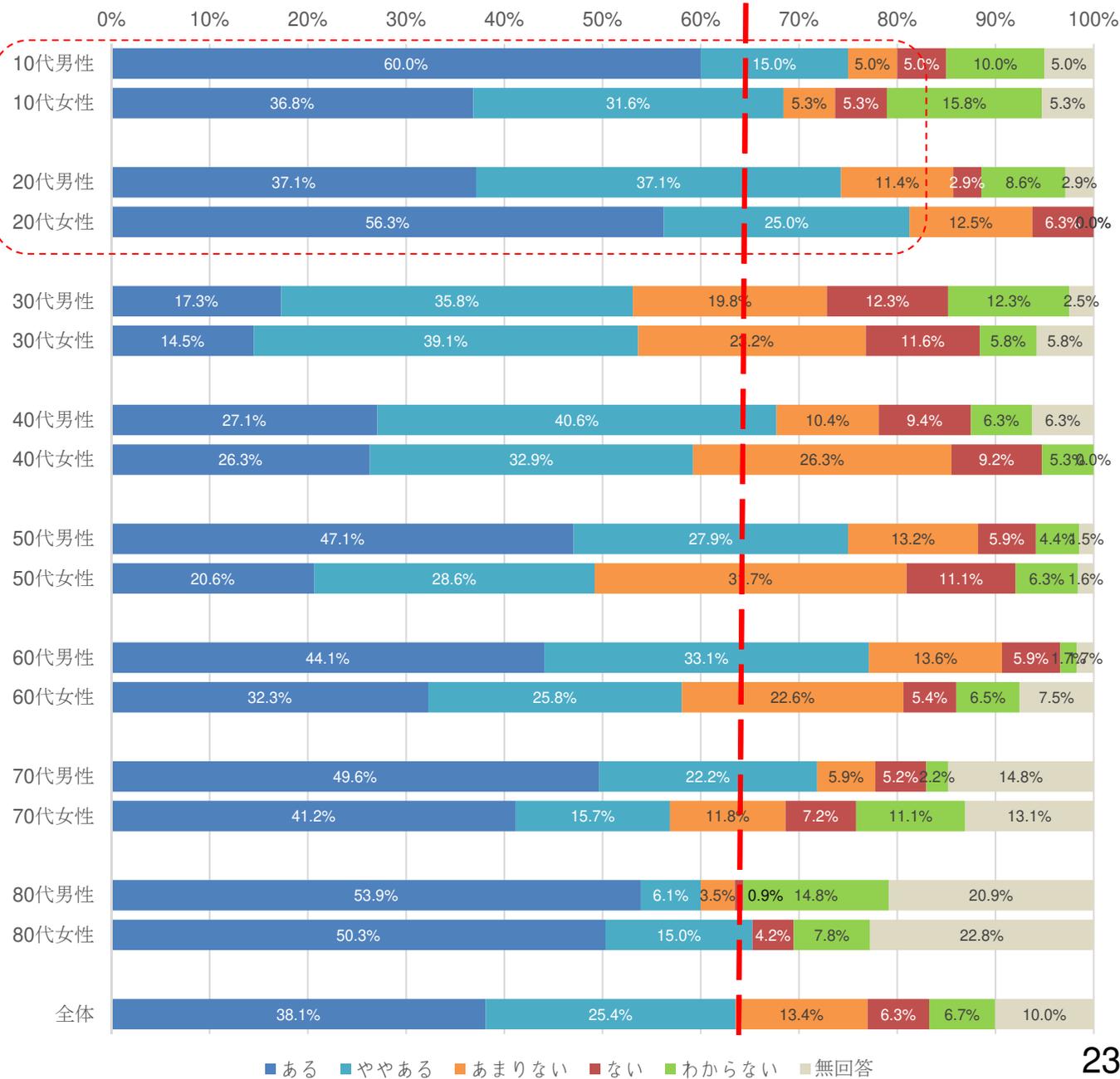
若年層の地域に対する愛着は高い!!

子育て世代の女性の愛着は地区平均より低い!!



今後の子供たちに影響は大丈夫?!

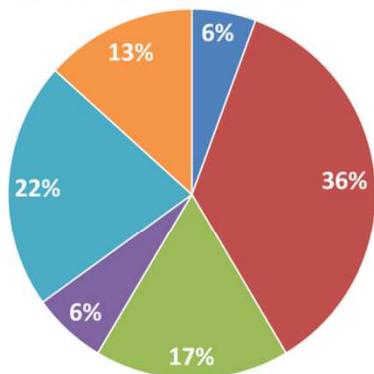
地域への愛着度が子供たちへの定住意識に影響を与えることはないか



以前とくらべて地域に対する思いに変化はありますか

地域に対する思いの変化 真人町

- 以前より好き
- 変わらず好き
- 好きでなくなった
- 好きでなかった
- わからない
- 無回答



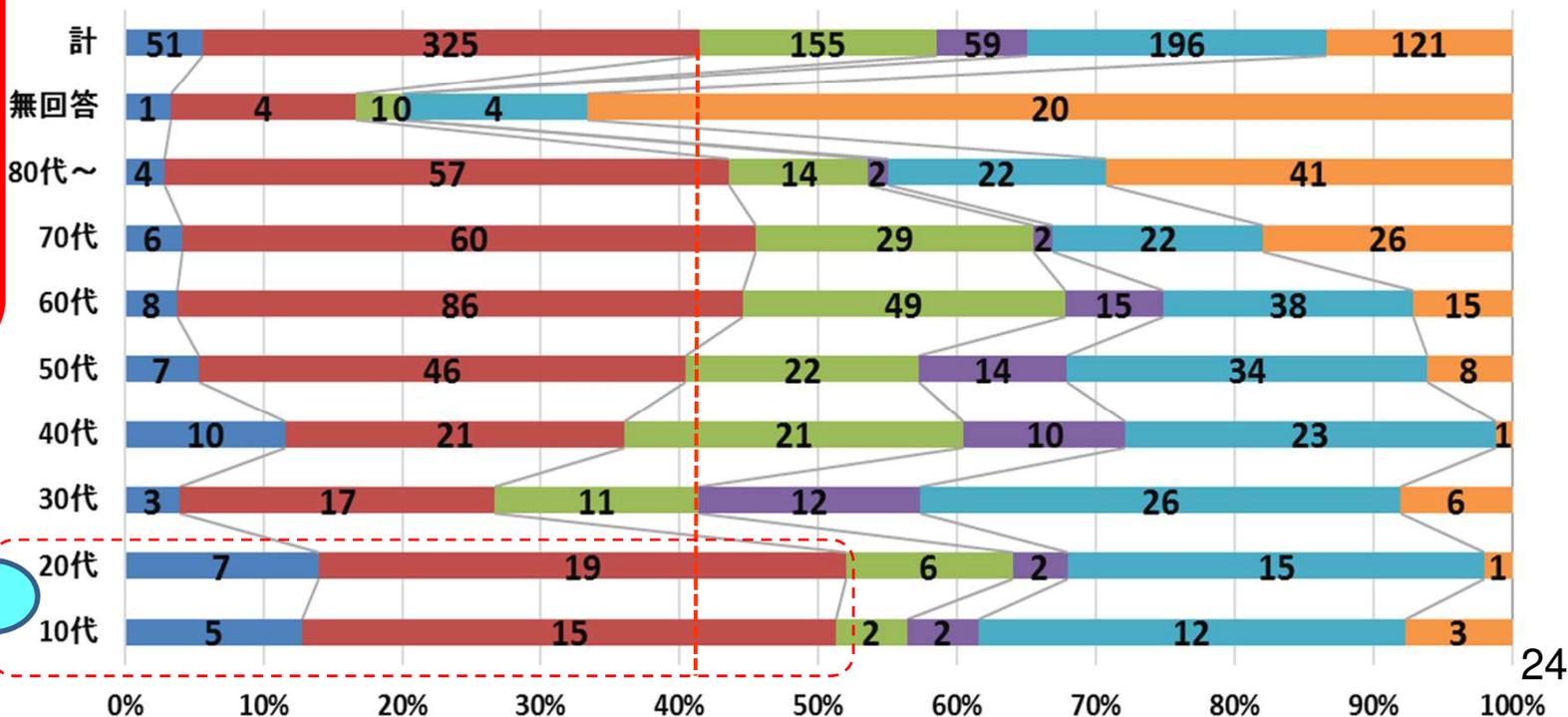
❗ 若年層の地域に対する愛着や思いは高い

・あなたの思いが若者に伝わっていないでしょうか…?



以前とくらべて地域に対する思いの変化 真人町

- 以前より好き
- 変わらず好き
- 好きでなくなった
- 好きでなかった
- わからない
- 無回答



若者の絆で、令和元年度から小千谷祭りに南部の万灯が出陣！今後の更なる活躍に期待

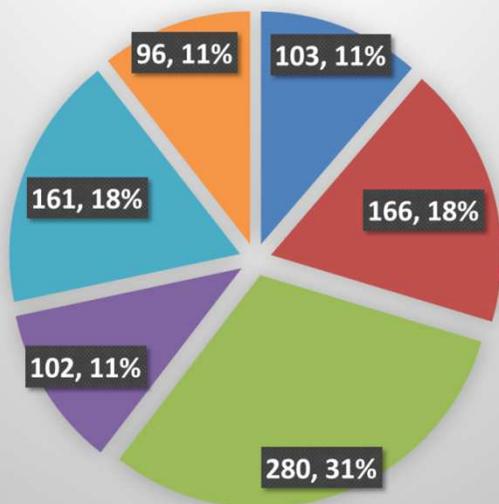
真人・岩沢…南部で出陣!!



今後の真人町全体の活動や行事について 三地区の状況

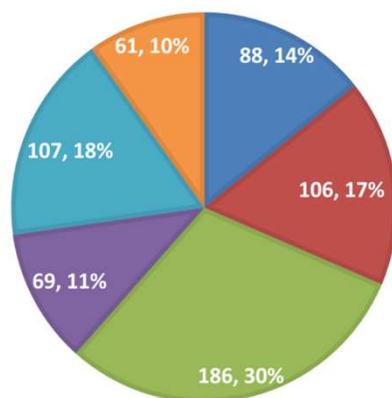
今後の地区行事・活動について 真人町

■全体で ■地区毎 ■今のまま ■関心無 ■わからない ■無回答



今後の地区行事・活動について 里地地区

■全体で ■地区毎 ■今のまま ■関心無 ■わからない ■無回答

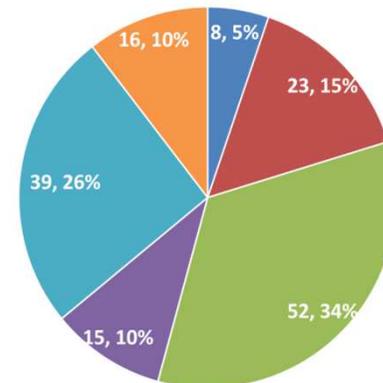


里地地区 大運動会



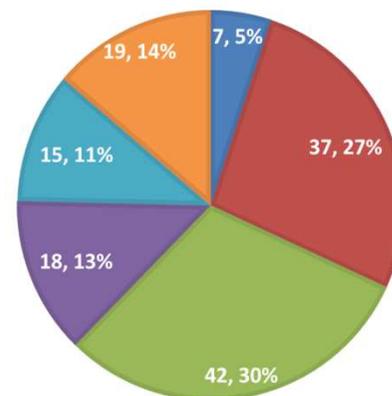
今後の地区行事・活動について 芋時地区

■全体で ■地区毎 ■今のまま ■関心無 ■わからない ■無回答



今後の地区行事・活動について北部地区

■全体で ■地区毎 ■今のまま ■関心無 ■わからない ■無回答



北部地区 敬老会



三地区で開催 デイホーム

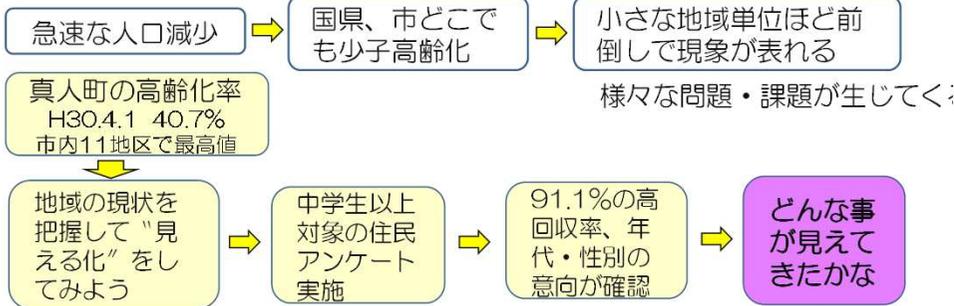


☆三地区とも現状の「今のままで」が多くのおいとなりました。

・「真人町全体での行事や活動」は少数の声となりますが、デイホームや今年初参加となる小千谷祭りへの万灯参加などは拡充されても良いものかと思えます。

アンケート結果から見えるポイント

ご協力を頂いたアンケートを集計し、見て分かり易くするために項目ごとに再集計を行って分析を進め、「見える化」を図ってきました。そして、その現状を把握し、様々な問題や課題を自分のものとし、「我がごと」として「話のタネ」とした対話ができるように「アンケート結果から見えるポイント」としてまとめました。それぞれがさらに自分なりに結果をかみ砕き、話し合いの場を広げて対話の場が広がれば幸いです。



アンケート結果から見えるポイント①

真人町

将来人口を推計すると「少子高齢化が加速」し、急速な人口減少がさらに進みます。そして、様々な問題や課題が生じてきます。今回の「住民アンケート結果」からも、それらが見えてきました。「今が良くて、10年後にはどんな困りごとが…」など、この住民アンケートを話のタネとして対話を進めることから始めましょう。そのため、ここではアンケート結果のポイントに記載しました。

- 70代女性や80代以上から高齢者のみの世帯が増加。
 - ▶ 支える側から支えられる側へシフトされ、家族や地域から支えてもらう高齢者が増加する。
⇒高齢者のみの世帯割合も増加し、高齢者移動支援、福祉介護などの仕組みを考えないと。
 - ▶ 高齢者の単身世帯も増加し、将来の対応が必要となる。
⇒所有地・建物の維持管理は… 空き家の増加による防犯などの対策も必要。
※80代以上の女性は半数近くの人が配偶者がいない。
- 若い世代に配偶者がいない人が多い。
 - ▶ 30・40代の世代に独身者が多く、結婚を機に転出による人口減少もある。
⇒地域の子供の割合が少なく、多老化の進行が著しい。婚活などに対する認識も深めていかないと。
 - ▶ 3世代家族が著しく減少している。
⇒後継者の対策は。

高齢者への福祉や支えあいの仕組みを取り組まないとい

嫁さんと後継者対策はどうする？

アンケート結果から見えるポイント②

真人町

- 農業従事者の90.7%が60代以上。
 - ▶ 兼業農家が多いが、農業の主力は60・70世代。山間地では国の農業政策により、転出者も通い農業で現在は農地を保全。
 - ▶ 各地で小規模圃場整備事業が進められている。これからの担い手は個人、集落営農!? 受託しても農地が点在では管理の労力も負担も大変!
- 70代になると自分で車を運転する人の割合が減少。
 - ▶ 送迎する側の負担は今後増加。送迎する側の人数減少により、日常生活での移動が困難になる人の数は、今後確実に増加していく。
- 高齢者の移動支援は、今後の重要なテーマだという認識。
 - ▶ 大半が車の運転ができるため、「今は困っていない」状況。ただし、車の運転ができなくなると、日々の暮らしに困る人が急増することは確実。
 - ▶ 30代から60代(現在、高齢者を送迎している側)で比較的強く求めている傾向がある。

将来的な農地の維持管理はどうする？

地域の人口構成を勘案すると、移動支援は今から準備すべき課題

アンケート結果から見えるポイント③

真人町

- 町内、地域活動への参加状況は全体で6割。
 - ▶ 20代女性と30代の「参加していない」の回答割合は高い。
 - ▶ 50・60代男性の参加割合は高く、役員として活動、行事の中心を担う。
 - ▶ 30・40代の参加理由は「頼まれたり誘われた」がトップ。全体では「知り合いや仲間がいる」がトップ。
 - ▶ 不参加の理由では「時間がない」が全体のトップで、特に10代の割合は高く「10代は忙しい」30～50代も仕事との兼ね合いから「時間がない」の回答は高い。現代の仕事や勤務体制は、24時間営業や夜間・休日勤務など、行事の日も仕事に就いている人がいる。
- 他地区のアンケート結果では、20～50代で土曜日が毎週休日なのは3割、日曜日が毎週休日なのは約6割。約3割が日勤と夜勤の交代勤務という状況がある。(金ヶ崎町北部地区参考)
 - ▶ この世代は、必ずしも土日・夜間が休みではない。
- お祭りなどの行事は今後も続けていきたいか。
 - ▶ 「47%の人が続けていく」、「14%の人が思わない」と回答。10・20代と40代女性、50代男性は平均よりも高い回答。30代男性は平均よりも特に低い。

多様な地域活動へのかかり方を設けることで参加の可能性があるのでは？

直接対話を通じて、さらに理由を深掘りしていくことが必要。

この世代の参加を求めるのであれば、開催日設定の配慮が必要。

若い世代の高い意識を継続できるか。

アンケート結果から見えるポイント④

真人町

- ☑ 町内の付き合い方については4割の回答が現状に満足。
 - ▷ 複数回答の4割が現状に満足し、災害・防災時や高齢者の見守りなどに普段からの付き合いは大切と25%の人が回答。
 - ▷ 20・30代を中心に一定程度の人が近所づきあいが面倒だと15%の人が回答。
- ☑ 女性・若者の声を反映する必要性。
 - ▷ 「思う、やや思う」とした方は全体の過半数を超える55.3%が回答し、「思わない、あまり思わない」は14.1%で中堅世代の男性の割合が高い。
 - ▷ 20・30代と50代の女性に「思わない、あまり思わない」の回答(27.0~39.6%)が全体平均よりも高い割合。
 - ▷ 30代と70代の女性、80代以上で全体平均よりも低い割合。
- ☑ 定住受入れの必要性。
 - ▷ 「思う、やや思う」とした方は全体の過半数を超える52.3%が回答し、「思わない、あまり思わない」18.5%。30代男性を除き60歳代以下の回答割合は全体平均以上。
- ☑ 他地域との交流の必要性は全体で4割が肯定的で3割が否定的。
 - ▷ 肯定的な70代以下の回答は、30代男性と60・70代の女性が全体平均より低い回答。否定的な回答では、20~60代で割合が高く、20・60代女性と30代では肯定的な意見を否定的意見が上回った。

高齢者のみ世帯が増加するため普段からの付き合いはさらに重要。プライバシーに配慮しながら地域のつながりを維持・継続。

まずは、開かれた対話の場・機会を設けていくことと意識の高揚が必要。(会議のやり方の工夫も)

大半が定住受け入れを認めている!

交流事業を行う場合は、機運醸成が必要。

83

アンケート結果から見えるポイント⑤

真人町

- ☑ この地域に「住み続けたい」と「思う、やや思う」と回答した方は全体平均で52.8%。20代・80代と40~70代男性の割合が高い。
 - ▷ この地域の20代の思いの割合が高いのは特徴的ですが、30代の割合は低い! また、全般的に女性のほうが低い。
 - ▷ 「思う、やや思う」を合計した回答の割合も、高齢者ほど「思う」の割合が高く、年代が下がるほど「やや思う」の割合が高くなる。
- ☑ 他地区全体では36%の人が「自分の子供にも住み続けてほしい」と回答したが、それを上回る4割の人が否定した。
 - ▷ 10代男性と20代の回答割合は「住み続けてほしい」の割合が高い。50・60代男性と70・80代は平均よりも高い割合だが、60代から30代にかけてその割合は低くなる。
 - ▷ 「住み続けてほしい」に否定的な回答は30~60代の割合が高く、30代では50%を超えています。後継者を考える50・60代も高い割合(44.1~55.6%)です。また、子育て世代の女性も高い割合(52.6~56.5%)です。
- ☑ 地域に対する愛着度は6割以上で高く、若年層(10・20代)の地域に対する愛着も高い!!
 - ▷ 10・20代の愛着は地区平均を上回る割合。(68.4~81.3%)
 - ▷ 子育て世代女性の愛着は平均を下回る割合。(49.2~59.2%)

この地域の若年世代の思いは高い、次世代が地域への誇り・愛着を持ち、将来への希望を見出せるような地域づくりは不可避。

子育て世代の意向が若年層の定住意向に今後影響する可能性あり。83

アンケート結果から見えるポイント⑥

真人町

- ☑ 地域内で愛着を感じたり自慢はあるか。
 - ▷ 景観・自然景観、暮らす人々、助け合いなどの社会関係の順で高い回答がありましたが、名所・旧跡、特産品、諸行事などへの回答割合は低く、愛着を感じたり自慢のものはないと回答された方もいました。
- ☑ 以前とくらべて地域に対する思いに変化はあるか。
 - ▷ 「以前より好き、変わらず好き」を合わせた回答の全体割合は42%でほぼ以前から変わらず好きと回答し、「好きでなかった、好きでなくなった」の23%を大きく上回った。40~70代で以前より好きでなくなったとの回答割合が高かった。
 - ▷ 50~30代で全体平均を下回り若年になるほど低い割合となるが、10・20代は52%が好きだと回答し、好きでないのは13%の少数派。
- ☑ 今後の真人町全体の活動や行事について
 - ▷ 「地区ごと、今のままで」の回答が49.1で、真人町全体で11.3%、わからない18.1%を大きく超えた。
 - ▷ 「地区ごと、今のままで」の回答割合を地区別にみても、里地47%、芋時55%、北部57%と高い割合。
 - ▷ 真人町全体での活動は「真人地区町内会長協議会」、「デイホーム真人」とわずか!!

地域資源・伝統や根付いたものを大切にしながら、行事では人を呼べる北部地区の収穫祭に取り入れた大田楽、地域特性を生かした花火大会や里地地区のCX大会を手本に対話を深めてみましょう。

昔の行政単位が崩れ、学区も北部では別になって繋がりが薄くなるが、人口減少で維持することも大変になる。事案によっては組織単位を超えた枠組みも必要にならないか!?

85

アンケート結果から見えるポイント⑦

真人町

- ☑ 暮らしの中の困りごとトップ5は、
 - ①屋根の雪おろしや玄関先の雪のけなどの冬季の雪処理
 - ②今後、自分が運転をできなくなった場合の移動手段
 - ③自身の健康状態のこと
 - ④家族の介護に関わること
 - ⑤買い物、通院、通学、通勤などの移動手段
- ☑ 取組の満足度と重要度の評価トップ5は、(これから大切だと思っているテーマ)
 - ①買い物、通院、通学、習い事など、移動支援活動
 - ②冬季の道路除雪・交通確保、雪対策
 - ③婚活イベントや紹介などの対策 婚活支援
 - ④子育てなどの相談ができる場や人、子育て支援
 - ⑤農地・農業用施設・山林など、維持管理活動

困りごとの内容をさらに深掘りしていくことが必要。

ただし、世代によって上位ランキングされている内容は異なる。若年・中堅層は少数派であることを十分に認識し、丁寧に扱うことが求められる。

27

☑ 人口減少で少子高齢化は加速する

- ▷ 「国・県、市のどこでも人口減少は進むが、小さい単位の地域ほど前倒してその現象が進む。
(15年間で31.2%減少 ⇒ 今後15年間でさらに37.8%減少)
- ▷ 行政も税収が落ち、従来施設などの維持経費が嵩む事から自由に使える経費が縮小し、行政に依存することが難しくなる。

行政と地域のやるべき事の住み分けにより、地域でできる事は地域の特性を生かして行う必要がある!?

○高齢化による地域福祉は

- ▷ 高齢者数も減少するが、少子化の加速や生産人口の減少する人口構成では高齢化率は増加する。
(人口比 ⇒ 支える側の減少 支えられる側の増加)
- ▷ 三世帯同居が減少し、高齢者のみの世帯が増加し、家族や地域が支える事が必要となる。

地域の支え合い活動の構築(組織、仕組み)が必要!?

○役員の負担が増してくる

- ▷ 人口減少や多老化による役員の人選が困難となったり、負担が増してくる。

組織、役員体制の見直しが必要!?